



- 図版(写真) 495点
- 地図 119点
- グラフ・図表 52点
(グラフ9+図24+表19)
- 文字資料 50点
- 二次元コード 29点

message



木村靖二
(きむらせいじ)

東京大学名誉教授(ドイツ近現代史)

この新しい世界史では、古代から現在までの歴史過程を、それぞれの地域での文明の成立期、各文明の交流期、さらに欧米文化による世界の一体化期、そして一体化が深化したグローバル化世界の4期に分けています(➡p.8)。つまり歴史を、各地域を軸に、それらが時間とともにどのように変容してきたのか、また各地域が相互にどのように交流したり、競合したり、対立したり、合同したり、分離したりしたのかをみていくのです。そのなかで各地域もさまざまに変容し、拡大したり、縮小したり、あるいは消滅したりすることもおこりました。

グローバル化の深化とともに、各地域・国家は同質的な構造の世界に変容していくかのように見えてきました。しかし、グローバル化した世界では、地域や国家の多様性がかえって増大しているのです。たとえば、先進地域の人口は現在停滞か縮小に向かっています。一方、発展途上地域では人口は増えつつあり、両地域の格差や対立が広がりつつあるのではないかと指摘されています。こうした問題を理解するには、個々の地域や歴史などそれぞれの特有な形成過程から、グローバル化した世界を考える視点が求められます。歴史総合で学んだことを踏まえて、その理解をさらに深める助けとなるよう願っています(➡p.12)。

詳説世界史

世界史探究(世探704)
B5変型判(230mm×174mm) 398頁 予価860円

【編者】

木村 靖二 東京大学名誉教授
岸本 美緒 お茶の水女子大学名誉教授
小松 久男 東京大学名誉教授
橋場 弦 東京大学教授

【著作者】

阿部 幸信 中央大学教授
池田 嘉郎 東京大学准教授
勝田 俊輔 東京大学教授
島田 竜登 東京大学准教授
林 佳世子 東京外国語大学学長
村上 衛 京都大学准教授
株式会社 山川出版社

【編集協力者】

石井 栄二 東京都立国立高等学校教諭
藤本 和哉 筑波大学附属高等学校教諭



橋場 弦
(はしばゆずる)

東京大学教授(ギリシア古代史)

第Ⅰ部の1・4章と第Ⅱ部の7章では、ヨーロッパに文明が生まれ、周辺諸地域と交流しながら変容し展開していく流れが描かれています(➡p.6)。

のち世界の一体化を主導していくヨーロッパ文明ですが、その誕生の起源をたどると、実は西アジアやエジプトの古代文明から色濃く影響を受けていたことがわかります。近年、ポスト=コロニアリズムの影響を受けて西欧中心主義的な歴史観が反省を迫られていますが、古代ギリシア・ローマ文明の見方も例外ではありません。ポリスという都市国家を古代ギリシア人が建設するにあたっては、オリエン文明からさまざまなアイデアを取り入れました。ローマ人はその都市国家体制からスタートして、ついには地中海世界を統一しました。ローマ帝国が崩壊したあとに成立した西ヨーロッパ世界は、やがて近代資本主義体制の中核としての地位を獲得していきます。ユーラシア大陸西端の一地域にすぎなかったヨーロッパが、近代世界の成立に大きな役割を果たすようになった背景には、それ以前から積み上げられていたさまざまな歴史的条件が働いていたと言えます。

今回の教科書では、その一連のつながりがわかりやすいように構成を大きくあらため、設問や史料も一新して、近代以前のヨーロッパ世界の成り立ちがより明快に把握できるよう配慮しました。

世界史の枠組みを体系的に学べる 信頼の教科書

1 バランスよく、 わかりやすい丁寧な記述

➡p.10-13

- 分野・時代・地域をバランスよく、**背景や因果関係も丁寧に記述**しました。
- 新執筆陣のもと、近年の歴史学の研究成果を豊富に盛り込み、各時代で日本史も含めた同時代のつながりにも配慮しました。

2 時代の特色をつかむ多様な問いかけ

➡p.14-17

- 随所に「問い」を設けて学習目的を明確化し、さらに第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に「**第〇部を学ぶ前に**」を、終わりには「**まとめ**」を設け、構造的に世界史を理解できるようにしました。
- 第Ⅳ部の第19章には、現代の課題を歴史的にみるコラム「**現代世界への視点**」を設けました。

3 探究活動に取り組みやすい 大きな図版・豊富な史資料

➡p.18-19

- 従来よりも**判型を大きくし**(A5判→B5変型判)、図版や図表・文字資料を大幅に増やしました。
- 二次元コードから、図版・史資料をより詳しく見るができるようにしました。



岸本美緒
(きしもとみお)

お茶の水女子大学名誉教授(中国明清史)

世界史教科書の作成においては、一定のバランスと安定性を保ちつつ、歴史研究の進展に即応した新しい内容を取り入れていくことが課題となります。今回、「世界史探究」という新しい科目の教科書として『詳説世界史』を編集するに際しては、気鋭の研究者を多数新たな執筆陣として迎え、近年の歴史研究の成果に基づき、内容の刷新を図っています。

東アジア・東南アジアに関しては、諸地域間の影響・対立関係や文化的融合の状況について現行版以上に留意し、一国史の束にとどまらない歴史のダイナミックな動きを読み取っていただくよう工夫しています。図版や史料も、そのようなポイントを考えて、いわゆる定番ではない新味のあるものも選ばれていますので(➡p.14)、「問い」と合わせて、本文と有機的に結びつけて活用していただければ幸いです。

用語の選択については、今までゴシック体であった語を注に移しているなど、従来との相違にお気づきの点もあるかと思います(➡p.11)。これらは、単位数削減に伴う用語精選の必要とともに、研究の現状に依拠するという観点から、今後のスタンダードとなることを見据えて、教科書としての安定性も考慮しつつ慎重に検討した結果のものです。これらの新しい特色を生かして授業・学習をおこなっていただくことを願っています。



小松久男
(こまつひさお)

東京大学名誉教授(中央アジア近現代史)

今回の執筆は教科書の構成と内容を大きく見直す機会となりました。全体として最近の研究成果を取り入れるとともに、世界史理解のバランスをとるよう努めました。私が担当した部分での新しさとしては、下記の点を挙げることができます。

従来の地域名称「内陸アジア」を「中央ユーラシア」に改め、遊牧民の活動が東アジアや西アジアなどユーラシアの各地に与えた影響や相互関係が理解しやすくなるようにしました(➡p.10)。中央ユーラシアを統合したモンゴル帝国については、同時代の東西交流の説明を拡充し、ティムール朝はモンゴル帝国に続けて解説することで両者の関係性がわかるように工夫しました。

西アジア関係ではイスラーム教成立後の記述を一新し、イスラーム世界の広がりや役割をより鮮明とするよう努めました。文化面にも目配りしたほか、オスマン帝国については成立から近代に至るまで見通せるように配慮し、現代の中東については重要なテーマとしてパレスチナ問題とイスラーム主義の展開に留意しました。

また、図版については歴史的なイメージを喚起するものを採用しました。たとえば、世界地図「混一疆理歴代国都之図」(教科書147頁(➡p.19))などは是非じっくりと見ていただきたいと思います。

「世界史B」版と「世界史探究」版の対照表



「世界史B」版



「世界史探究」版

とくに分割・統合されている箇所の対応関係を、同色の網掛けや矢印で示しています。

部・章・節	部・章・節	
世界史への扉① 気候変動と私たち人類の生活 世界史への扉② 漂流民のみた世界 世界史への扉③ 砂糖からみた世界の歴史	世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史 自然環境と人類の進化 世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史 砂糖とコーヒーからみる世界の歴史／余暇からみえる現代世界／歴史のなかの家族	←指導要領Aに対応 ←「世界史への扉」の後継
序章 先史の世界	第I部 諸地域の歴史的特質の形成	←指導要領Bに対応
第I部	第I部を学ぶ前に	
第1章 オリентと地中海世界	第1章 文明の成立と古代文明の特質	第1章は各地の「古代文明」をまとめています。比較ができるようにも記述を配慮
1 古代オリент世界	1 文明の誕生	
2 ギリシア世界	2 古代オリент文明とその周辺	
3 ローマ世界	3 南アジアの古代文明	
	4 中国の古代文明	
	5 南北アメリカ文明	
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	←「内陸アジア」から変更
	1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界	中央ユーラシア・東西アジアの相互関係にも配慮
	2 秦・漢帝国	
	3 中国の動乱と変容	
	4 東アジア文化圏の形成	
第2章 アジア・アメリカの古代文明	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	
1 インドの古典文明	1 仏教の成立と南アジアの統一国家	
	2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	
2 東南アジアの諸文明	3 東南アジア世界の形成と展開	
3 中国の古典文明	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	オリентとギリシア・ローマの繋がりを明確化
4 南北アメリカ文明	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明	
	2 ギリシア人の都市国家	
	3 ローマと地中海支配	
	4 キリスト教の成立と発展	
第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	西アジアとヨーロッパの相互関係に注目
1 草原の遊牧民とオアシスの定住民	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立	
2 北方民族の活動と中国の分裂	2 ヨーロッパ世界の形成	
3 東アジア文化圏の形成		
主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界	第II部 諸地域の交流・再編	←指導要領Cに対応
第II部	第II部を学ぶ前に	
第4章 イスラーム世界の形成と発展	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イスラーム教が各地に与えた影響に注目
1 イスラーム世界の形成	1 イスラーム教の諸地域への伝播	
2 イスラーム世界の発展	2 西アジアの動向	
3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	
第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	1 西ヨーロッパの封建社会とその展開	
1 西ヨーロッパ世界の成立	2 東ヨーロッパ世界の展開	
2 東ヨーロッパ世界の成立	3 西ヨーロッパ世界の変容	
3 西ヨーロッパ中世世界の変容	4 西ヨーロッパの中世文化	
4 西ヨーロッパの中世文化	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国	ティムール朝はポスト・モンゴルとしてモンゴルの直後へ
第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	1 アジア諸地域の自立化と宋	
1 トルコ化とイスラーム化の進展	2 モンゴルの大帝国	
2 東アジア諸地域の自立化		
3 モンゴルの大帝国		
主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界		

第III部 第7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展	第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	アジアの交易が世界に与えた影響に注目
第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 2 ムガル帝国の興隆 3 清代の中国と隣接諸地域	
第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	「世界史B」版の8・9章を統合
第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 主題学習Ⅲ 資料から読みとく歴史の世界	第III部 諸地域の結合・変容 第III部を学ぶ前に 第12章 産業革命と環大西洋革命 1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配	←指導要領Dに対応 環大西洋革命として再編成
第11章 欧米における近代国民国家の発展 1 ウィーン体制の成立 2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3 南北アメリカの発展 4 19世紀欧米文化の文化	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	
第12章 アジア諸地域の動揺 1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	
第IV部 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 3 アジア諸国の変革と民族運動	
第14章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動	第一次・第二次で章を分割
第15章 冷戦と第三世界の独立 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 4 石油危機と世界経済の再編	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成 第IV部 地球世界の課題 第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	国際連合の成立・冷戦の始まりまで ←指導要領E(1)～(3)に対応
第16章 現在の世界 1 社会主義世界の変容とグローバル化の進展 2 途上国の民主化と独裁政権の動揺 3 地域紛争の激化と深刻化する貧困 4 現代文明の諸相	第19章 冷戦の終結と今日の世界 1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界 4 現代文明の諸相	1970年代末を画期として、章を分割
主題学習Ⅳ 資料を活用して探究する地球世界の課題	地球世界の課題の探究	←指導要領E(4)に対応

目次と配当時間例

新学習指導要領に対応した **4部構成** です。
世界の歴史の大きな枠組みと展開を部ごとに構成しています。

目次

世界史へのまなざし① 地球環境からみる人類の歴史
自然環境と人類の進化 4

世界史へのまなざし② 日常生活からみる世界の歴史
砂糖とコーヒーからみる世界の歴史 8 / 余暇からみる現代世界 10 / 歴史のなかの家族 12

I 部 諸地域の歴史的特質の形成 15

- 第I部を学ぶ前に 16
- 第1章 文明の成立と古代文明の特質 18
 - 1 文明の誕生 18
 - 2 古代オリエント文明とその周辺 20
 - 3 南アジアの古代文明 28
 - 4 中国の古代文明 30
 - 5 南北アメリカ文明 35
- 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 37
 - 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 37
 - 2 秦・漢帝国 40
 - 3 中国の動乱と変容 44
 - 4 東アジア文化圏の形成 47
- 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 54
 - 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 54
 - 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 58
 - 3 東南アジア世界の形成と展開 60
- 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 63
 - 1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 63
 - 2 ギリシア人の都市国家 66
 - 3 ローマと地中海支配 75
 - 4 キリスト教の成立と発展 83
- 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 85
 - 1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 85
 - 2 ヨーロッパ世界の形成 91
- 第I部まとめ 102

II 部 諸地域の交流・再編 103

- 第II部を学ぶ前に 104
- 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 106
 - 1 イスラーム教の諸地域への伝播 106
 - 2 西アジアの動向 111
- 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 117
 - 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開 117
 - 2 東ヨーロッパ世界の展開 122
 - 3 西ヨーロッパ世界の変容 126
 - 4 西ヨーロッパの中世文化 134
- 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 137
 - 1 アジア諸地域の自立化と宋 137
 - 2 モンゴルの大帝国 144
- 第9章 大交易・大交流の時代 150
 - 1 アジア交易世界の興隆 150
 - 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容 158
- 第10章 アジアの諸帝国の繁栄 162
 - 1 オスマン帝国とサファヴィー朝 162
 - 2 ムガル帝国の興隆 166
 - 3 清代の中国と隣接諸地域 169
- 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向 176
 - 1 ルネサンス 176
 - 2 宗教改革 180
 - 3 主権国家体制の成立 184
 - 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 189
 - 5 北欧・東欧の動向 195
 - 6 科学革命と啓蒙思想 199
- 第II部まとめ 202

分野・時代・地域を
バランスよく
構成しています。

各部の終わりには、世界史の枠組みや展開を構造的に理解するために、「まとめ」➡p.17 を設けました。

第I部～第III部の冒頭に、諸資料を用いて、生徒の関心を高め課題意識を育む「第〇部を学ぶ前に」➡p.14 を設けました。

III 部 諸地域の結合・変容 203

- 第III部を学ぶ前に 204
- 第12章 産業革命と環大西洋革命 206
 - 1 産業革命 206
 - 2 アメリカ合衆国の独立と発展 209
 - 3 フランス革命とナポレオンの支配 212
 - 4 中南米諸国の独立 217
- 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 220
 - 1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 220
 - 2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 226
 - 3 アメリカ合衆国の発展 234
 - 4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄 238
- 第14章 アジア諸地域の動揺 242
 - 1 西アジア地域の変容 242
 - 2 南アジア・東南アジアの植民地化 246
 - 3 東アジアの激動 252
- 第15章 帝国主義とアジアの民族運動 258
 - 1 第2次産業革命と帝国主義 258
 - 2 列強の世界分割と列強体制の二分化 265
 - 3 アジア諸国の変革と民族運動 270
- 第16章 第一次世界大戦と世界の変容 278
 - 1 第一次世界大戦とロシア革命 278
 - 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 284
 - 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 292
- 第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 300
 - 1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 300
 - 2 第二次世界大戦 308
 - 3 新しい国際秩序の形成 314
- 第III部まとめ 322

IV 部 地球世界の課題 323

- 第18章 冷戦と第三世界の台頭 324
 - 1 冷戦の展開 324
 - 2 第三世界の台頭とキューバ危機 328
 - 3 冷戦体制の動揺 332
- 第19章 冷戦の終結と今日の世界 339
 - 1 産業構造の変容 339
 - 2 冷戦の終結 344
 - 3 今日の世界 349
 - 4 現代文明の諸相 358
- 地球世界の課題の探究 364
- 世界史年表 366
- 索引 378
- 世界の自然・世界の気候区分 表見返し
- 現代の世界 裏見返し

【二次元コード】

本書の以下の頁に掲載した二次元コードから、インターネットを使用した学習ができます。二次元コードの使用にあたって使用料はかかりませんが、通信料がかかります。インターネットを使用する際には、先生の許可を得たうえで使用してください。また、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。
p.21/p.22/p.41/p.61/p.62/p.74/p.87/p.99/p.116/p.123/p.134/p.140/p.147/p.151/p.155/p.165/p.168/p.179/p.207/p.213/p.215/p.239/p.245/p.252/p.259/p.299/p.312/p.314

【本書の使用上の注意】

暦 西暦を使用し、必要により中国暦・ロシア暦などを用いて説明した。
在位・在任・生没 原則として元首は在位・在任年を、ほかの人物については生没年を付記した。
外国語の仮名表記 人名および地名は原語に近づけて表記するようにしたが、慣用の定着しているものはこれに従った。
史料引用 できるだけ必要な部分にとどめたが、前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。出典は文末に()の形で示した。

さらなる探究活動を想定し、二次元コードから、本文に掲載した**図版の全体図や部分拡大、追加の図版・文字資料**などを参照できるようにしました ➡p.19。

1. バランスよく、わかりやすい丁寧な記述

歴史学の研究成果を反映

本書では、全体にわたって近年の歴史学の研究成果を豊富に盛り込みました。

例えば2章では、「内陸アジア」から「中央ユーラシア」へ名称を変更し、さらに中央ユーラシア・東アジア・西アジアの相互関係についても理解できる記述としました。また、古代中国の政治や社会についても記述を刷新しています。

章・節・小見出しなどに「問い」を新設しました。→p.16

第2章

中央ユーラシアと東アジア世界

匈奴の国家と秦・漢が現れた紀元前3世紀以降、ユーラシアの東側には、遊牧と農耕の2つの世界が並立した。7世紀、可汗と皇帝を兼ねた唐の君主がこれらを統合した。

Q 2つの世界はそれぞれどのような特徴をもつ社会を形成し、またどのような関係にあったのだろうか。

中央ユーラシア——草原とオアシスの世界

Q 中央ユーラシアの人々の動向は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。

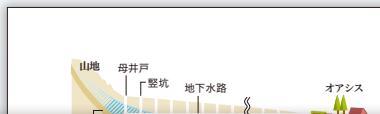
中央ユーラシアの風土

Q 中央ユーラシアの風土に適応して、人々はどのような生活を営むようになったのだろうか。

- ユーラシア大陸の中央部は、パミールの東西にのびる大山脈が高温多湿のアジアの季節風(モンスーン)をさえぎるために乾燥し、寒暖の差が大きい大陸性気候を特徴とする。ここには東のモンゴル高原から西の黒海北岸にかけて広大な草原が連なり、その南にはいくつもの砂漠が広がっている。そして、砂漠のあいだには高山地帯の雪解け水を水源とする
- 中央アジアのオアシスが点在する。この広大な空間を中央ユーラシアと呼ぶ。ここでは、きびしい環境に適応した草原の遊牧民や、オアシスの定住民が活躍し、彼らは周辺の諸勢力と様々な関係を結びながら世界史の展開に大きな役割を果たした。



1. 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 37



アシスの景観 現在の中国・新疆ウイグル自治区に位置するトゥルファン。



ス都市は連合して大きな国家をつくることはなく、周辺の大国の支配下に入ることが多かった。オアシス都市の資源や東西交易の利益は、北方の草原地帯の遊牧国家にとっても重要であり、たとえば、匈奴はオアシス都市の支配をめぐる漢と争奪戦を繰り返した。

漢帝国

漢の時代に、地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。

Q 新たに現れた「皇帝」は、それまでの「王」とどのように異なるのだろうか。

戦国の七雄の一国であった西方の秦が、新しい政治制度を入れて強大化した。東方の諸国は他国と同盟を結んで自国だったが、前221年、秦王の政に征服された。彼は国内をて官僚を派遣する郡県制を征服地にも導入し、新たな君主

歴史用語の精選

近年の歴史学の研究成果を踏まえて、歴史用語を精選しました。また注を充実させて、その詳細や位置づけなどもわかりやすいようにしました。



始皇帝陵の兵馬俑 兵士と軍馬をかたどった俑(陶製の像)。約8000体すべての造形が異なる。始皇帝の強大な権力と、それを守る難しさを伝えている。



兵馬俑



の称号である「皇帝」を名乗って(始皇帝)、度量衡・文字の統一や思想の統制をおこなった。また、北方では戦国時代以来の長城を修築して匈奴と戦い、南方では華南に進出した。

しかし、あいつぐ軍事行動や土木工事の負担に人々は苦しみ、

始皇帝が死去すると東方各地で反乱がおこって、秦は滅亡した。その後の混乱のなかで、楚の名門出身の項羽を破った農民出身の劉邦が、諸勢力から皇帝に推戴され(高祖)、漢王朝を開いた(前漢)。

漢代の政治

Q 漢の支配体制は、どのように変化していったのだろうか。

漢は秦の制度の多くを引き継いだ。高祖は秦の都咸陽の近くに新都長安(現在の西安)を建設し、統一以前の秦の領域を郡県制によって直接支配する一方、功臣や一族を王に任じて、かつての東方諸国の領域の支配をゆだねた。対外的には、冒頓単于のもとで強大化した匈奴に敗れ、このち漢は匈奴に屈服して和平をはかった。

高祖の死後、皇帝と諸王の対立が深まり、やがて軍事衝突に発展した(呉楚七国の乱)。これに勝利した皇帝は、諸王国の統治に干渉するようになった。前2世紀後半に即位した武帝は、匈奴を撃退するとともに、諸王の実権を奪い、南越国や衛氏朝鮮を滅ぼして、漢の支配下に入れた。また、張騫を大月氏に派遣したことをきっかけに、中央アジアの交通路をおさえて、タリム盆地一帯にまで勢力をのぼした。

武帝は、地方長官の推薦で官吏を選任する人事制度(郷挙里選)をとり、諸王国にも中央から官吏を派遣し、さらに監察官を送って全国を監視した。経済面でも、塩・鉄の専売や物価調整策などによって国内の統合



秦・漢の青銅貨幣 秦の半兩銭(左)と漢の武帝の時代に発行された五銖銭(右)。円形・方孔の銅銭は、始皇帝の征服活動によって東方に広まり、漢に受け継がれて東アジアの貨幣の基本形となった。

Q 漢の初期の支配体制を、郡県制と封建制(→p.32)を併用したという意味で、「郡国制」と呼ぶこともある。

秦末の混乱期に独立した国家で、広東・広西・ベトナム北部を中心に、その周辺にまで勢力をおよぼした。

前2世紀に衛氏が朝鮮西北部に建てた国家。武帝はこれを征服して楽浪などの郡をおいた。

各地の特産品を国家がほかの地方へ輸送して物価を均一にする政策(均輸)と、貯蔵した産物の価格が上がると売り出し、下がると買い入れて、物価の水準を保つ政策(平準)があった。

1. バランスよく、わかりやすい丁寧な記述

従来の記述の見直し

近世～近代にかけてのヨーロッパ史に関する記述も、歴史学の研究成果を盛り込んで刷新しました。

わかりやすく丁寧な記述、「歴史総合」とのつながり

歴史的事象のつながりや因果関係、さらにその位置づけなどが理解しやすいように、丁寧な記述を心掛けました。また、「歴史総合」で学んだ「国民国家」などの内容を、通史的な視点からさらに深められるように工夫しました。



「旧体制」の風刺画 第三身分(下)が、特権身分である第一

フランス革命とナポレオンの支配

Q フランス革命は、どのようにして「国民」を主役とする社会をつくり出したのだろうか。

フランス革命

Q フランスの国家体制は、革命のなかでどのように変化したのだろうか。

ルイ14世以来、フランスはヨーロッパを代表する絶対王政の国だった。社会は身分集団や特権団体によって分断され、また、地域ごとに裁判制度や税制が異なるなど、1つの国としての均質性は弱かった。身分のうち、聖職者の第一身分と貴族の第二身分が土地と公職を独占したが、税の大半は人口の約9割を占める平民の第三身分が担った。第三身分の内部にも格差があり、都市と農村の民衆は生活苦しかった一方で、ブルジョワは富を蓄えていたが、どちらも第一・第二身分に対する不満を強めていた。

18世紀のフランスは、あいつぐ戦争で慢性的な財政赤字の状態にあり、アメリカ独立戦争の戦費が財政破綻をまねいたため、ルイ16世は第二身分への課税を強化しようとした。課税強化のため、17世紀以来休止状態にあった全国三部会が1789年に招集・開催されると、に向けて言論が自由化されたことを背景に、第一・第二身分の特権を批判する世論が第三身分を中心に高揚した。特権身分の一部と第三の議員は全国三部会を離脱して、自分たちが真の国民代表であると



バスティーユ牢獄への攻撃 民衆は、バスティーユ牢獄に武器・弾薬があると考え、牢獄を襲撃した。バリの民衆は、この後も革命の展開に大きな影響をおよぼした。

日本を含めた世界の動き

近現代を扱う第Ⅳ部(第18章・第19章)では、日本を含めた世界のグローバルな動きに配慮して記述しています。



リトルロック高校事件(左) 1957年、南部・アーカンソー州のリトルロック＝セントラル高校が、黒人も白人と同じ学校に通う人種融合教育を決定すると、州知事が反対して9名の黒人生徒の登校を阻止し、地元の白人も学校を取り囲んだ。黒人生徒は、合衆国連邦軍の護衛のもとで登校する事態となった。



公民権運動を指導するキング牧師(上) 彼は黒人差別の撤廃を求める公民権運動を組織し、1963年8月、20万人以上の支持者による「ワシントン大行進」を指導して注目された。

アメリカ合衆国(下左)や日本(中央)でのベトナム反戦運動 ベトナム戦争は写真やテレビなどを通して世界中に報道され、その長期化とともに反戦運動も世界中に広がった。日本でも反戦運動がおこなわれ、沖縄の米軍基地問題に結びついた(写真は嘉手納基地から飛び立つ爆撃機に反対する人々)。またアメリカ国内では、運動は人種差別への抗議とも結びついた。

アメリカ合衆国とソ連の変容

Q 1960年代のアメリカ合衆国とソ連は、それぞれどのような変容をとげたのだろうか。

ベトナム戦争が進んだ1960年代は、アメリカ合衆国の変容の時期でもあった。1961年に初のカトリック系大統領として就任した民主党のケネディは、ニューフロンティア政策を掲げて国内改革を呼びかけ、南部に残る黒人差別の撤廃を求める公民権運動にも理解を示した。63年11月に彼が暗殺されたのち、後継のジョンソン政権は64年に選挙権や公共施設での人種差別を禁止する公民権法を成立させ、「偉大な社会」をスローガンとして「貧困との闘い」を推進した。しかし、ジョンソン政権のもとで60年代後半にベトナム戦争が泥沼化するなど、国内ではベトナム反戦運動が高揚し、人種差別・貧困・性差別などに対する抗議運動とも連動した。運動の中心的な担い手は、戦後のベビーブーム世代の学生であり、60年代末には日本を含む一連の先進諸国でも、同様の学生運動が繰り広げられた。68年に公民権運動の指導者キング牧師が暗殺されると、人種問題をめぐる暴動が多発するなど、合衆国では社会的な亀裂が拡大していった。こののち、ニクソン大統領がベトナムからの撤兵を実現したが、政治スキャンダルによって74年に辞任に追い込まれた。

1972年の大統領選挙で再選をめざした共和党ニクソン陣営が、ワシントンのウォーターゲート＝ビルにあった民主党本部を盗聴しようとしたが発覚し、ニクソン自身も関与していたとの疑惑が高まった。74年、ニクソンは下院での弾劾決議を前に大統領を辞任した。この一連の動きをウォーターゲート事件と呼ぶ。

アメリカ独立宣言(抜粋)

われわれはつぎのことが自明の真理であると信ずる。すべての人は平等につくられ、神によって、一定のゆずることのできない権利を与えられていること。そのなかには生命、自由、そして幸福の追求が含まれていること。これらの権利を確保するために、人類のあいだに政府がつくられ、その正当な権力は被支配者の同意に基づかねばならないこと。もしどんな形の政府であってもこれらの目的を破壊するものになった場合には、その政府を改革しあるいは廃止して人民の安全と幸福をもたらすにもっとも適当と思われる原理に基づき、そのような形で権力を形づくる新しい政府を設けることが人民の権利であること。以上である。……現在のイギリス王の歴史はたびかさなる侮辱と権利侵害の歴史である。すべては、わが諸州の上に絶対専制政



アメリカ独立宣言の起草 図中左から4人目がジェファソン(のち第3代大統領(在任1801～09))。

治をうちたててを直接目的としているのである。以上のことを立証するために、公正な世界に向かってあえて事実を提出する。

(江上波夫監修「新訳 世界史史料・名言集」)

人権宣言(抜粋)

※正式には「人間および市民の権利の宣言」。

第1条 人間は自由かつ権利において平等なものと生まれ、また、存在する。社会的な差別は、共同の利益に基づいてのみ、設けることができる。
第2条 あらゆる政治的結合(国家)の目的は、人間の自然で時効により消滅することのない権利の保全である。それらの権利とは、自由・所有権・安全および圧政への抵抗である。
第3条 あらゆる主権の原理(起源・根源)は、

本質的に国民のうちに存する。いかなる団体、いかなる個人も、国民から明白に由来するのではない権威を、行使することはできない。
第17条 所有権は神聖かつ不可侵の権利であるから、何人も、適法に確認された公共の必要が明白にそれを要求する場合であって、また、事前の公正な補償の条件のもとでなければ、それを奪われることはない。
(江上波夫監修「新訳 世界史史料・名言集」)



人権宣言

Q 近代民主主義の基本精神となった独立宣言は、名譽革命の権利の宣言とどのように異なるのだろうか。

④ 会議での規定により、憲法は9州の批准を得て1788年に発効したが、全13州で批准されたのは90年であった。



ワシントン 彼の先祖は17世紀にイギリスから移民し、ヴァージニアで奴隷制プランテーションを営んだ。また、彼は憲法制定会議の議長もつとめた。

アメリカ合衆国の独立と発展 211

して国民議會を自称し、憲法の制定を目的に掲げた。国王側が軍事力で国民議會を弾圧しようとする、バリの民衆は自衛のため7月14日にバスティーユ牢獄を攻撃して武器を奪い、さらに市長を独自に選出し、民兵部隊も組織した。国王は国民議會やパリ市の改革を承認し、ほかの都市でも同様の市政改革がおこなわれた。一方、政治的混乱のなかで、貴族(領主)に襲われると思い込んだ農民が各地で蜂起し、貴族の屋敷を襲撃した。

農民の蜂起を受けて、国民議會は封建的特権の廃止を決定し、税負担の平等化や公職の開放などを定め、これによって蜂起は沈静化した。さらに議會は、ラ Fayette らの起草による人権宣言を発して、すべての人間の自由と権利における平等、国民の主権、私有財産の不可侵などの理想を公示し、国王にも圧力を加えてこれを認めさせた。また議會は、ギルドを廃止して国民の経済活動を自由化しつつ、全土に画一的な県制度をしき、全国一律の度量衡の導入も決定した。さらにカトリック教会の聖職者を国家の管理下におき、主権者である国民への忠誠を要求した。こうしてフランス革命は、身分・特権といった格差や地域の相違を解消して、均質な国民を主体とする国民国家を築いていくことになった。1791年にはフランス史上最初の憲法が制定され、議會(立法議會)と国王を柱とする立憲君主政が発足した。

一方で、王の弟をはじめ有力貴族の多くが周辺諸国に亡命して、革命への干渉を働きかけていた。また国王一家も王妃の実家オーストリアに亡命を試みて失敗し、国民の信頼を失った(ヴァレンス逃亡事件)。こうした動きを受けてオーストリアがプロイセンと共同で介入姿勢をみせる

① そのほかに、領主裁判権や賦税、教会による十分の一税(→p.117)が無償廃止された。地代(小作料)は有償での廃止とされたが、この条項のちに改められ、農民の多くが無償で土地を手に入れた。
② 人権宣言の作成に際しては、ジェファソン(→p.210)からの助言もあった。
③ 1799年にメートル法として正式に採用された。

④ 議會は貴族院をもたない一院制だったが、選挙権には財産資格が課せられていた。また女性は、当時のおもな役割が家庭を守ることにあると考えられていたことから、選挙権をもたなかった。

3. フランス革命とナポレオンの支配 213

本文の理解を深めたり、とくに重要な史料を掲載しています。本文の記述を踏まえ、比較の視点などを盛り込んで「問い」も付しています。

➡p.16

2. 時代の特徴をつかむ多様な問いかけ

「第〇部を学ぶ前に」

歴史学習に対する生徒の関心を高め、課題意識を育むために、第Ⅰ部～第Ⅲ部の冒頭に「第〇部を学ぶ前に」を設けました。諸資料の読み解きを通して、部を貫く視点や概念などを考察し、さらに生徒自身が独自の問いを立てられるように工夫しました。

Ⅰ部を学ぶ前に 古代文明や諸地域の歴史的特質とは何だろうか？

第Ⅰ部では、各地の古代文明や諸地域の歴史・特徴を個別に学んでいく。一方、それらを別の視点から読み解くと、地域ごとに異なる点や事例をまたいで共通する点も見出すことができる。その視点は、生業・身分・階級・王権・宗教・文化・思想など様々に考えられるだろう。ここではその一例として古代の西アジアに注目し、多様な身分・階級が生れた背景やその役割、王権と宗教の関係などについて考えてみよう。

A 農作業をおこなう古代エジプトの農民たち

（新王国時代の墓の壁画）農民たちはどのような作業をおこなっているだろうか。また、右端に大きく描かれている人物は何をしているのだろうか。

B シュメール人による農作業の手順（前18世紀～前17世紀）古代メソポタミアの農民たちはどのような負担を負っていたのだろうか。

お前が畑に灌漑をする準備をしなければならぬ時は、運河の土手や畑のそばを取り除くために調べなければならない。お前が畑に水を入れた時、その水をあまり高くならないようにせよ。水が引いて畑が出て来た時には、畑の乾いた地点を調べ、そこは開きをせよ。牛に畑を踏ませよ。雑草を処理した後で畑の輪郭を決め、そこを何度か3分の2マナの重さの薄い板で均せ。平たい板で牛の蹄跡を消し、（畑を）きれいにせよ。

（歴史学研究会編『世界史資料1』）

ドゥアケティという名のシレ（地名）の男が、ベビという名の息子に与えた教訓の始まり。その時、彼は、その息子を王都でもっとすぐれた学校に、貴族の子供たちと一緒に入学させるために、王都に向かって船で南へと行くところだった。そして彼はベビに言った。「私は鞭で打たれる者を見た。お前は、その心を書物に向けるべきだ。労働者として人が連れ去られるのを見なさい。書物に勝るものはない。それは水上の船だ。ケミト（書記教育の教科書）の終りを読みなさい。そこにはこの言葉がある。曰く、『書記は王宮のどんな地位にあって、そこで困窮することはない。』」（歴史学研究会編『世界史資料1』）

図はどのような目的で書かれたのだろうか。また、書記と呼ばれた人々はエジプトでどのような役割を担い、ほかの職業と比較してその社会的な地位はどのようなものであったと推測できるだろうか。

図 エジプト・中王国時代の「ドゥアケティの教訓」（前19世紀後半）と書記座像（古王国時代）

前7000年	前3000年	前2650年	前2370年	前2000年	前1900年	前1700年	前1650年	前1550年	前1500年	前1300年
農耕・牧畜の開始	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現	エゲ文明の出現

古代の西アジア・東地中海地域のおもなできごと

強き王、アッカドの王ナラム＝シンは、四方世界が彼に反乱した時、イシュタル神が彼に示した愛によって、1年で9つの戦いに勝利した。そして彼ら立ち上がった王たちを捕らえた。彼が彼の町の基礎を危機から守ったことを見て、彼の町の人々は、エアンナのイシュタル神、ニッブルのエンリル神、トゥットルのダガン神、ケシュのニッブルサグ神、エリドゥのエア神、ウルのシン神、クタのネルガル神に、彼をして彼らの町となるように願った。そして彼らは、アッカド市の中に彼のための神殿を建立した。（歴史学研究会編『世界史資料1』）

図から、それぞれの町（都市国家）と神、また王と神は、どのような関係であったと考えられるだろうか。

図 アッカド王国・ナラム＝シンの碑文（前18世紀～前17世紀）と戦勝記念碑。上は古代メソポタミアの都市国家を統一したアッカド王国の最盛期の王ナラム＝シンの碑文。右はナラム＝シンが近隣の民族を征服した際の記念碑（部分）。

図 アブ＝シンベル神殿 紀元前13世紀頃にエジプトの王（ファラオ）ラメセス2世により造営された、太陽神ラーを祭神とする岩窟神殿。その入口には、青年期から壮年期までのラメセス2世を模した、4体の巨像がおかれている。

図のような巨大な建造物は、どのような人々によって建てられたのだろうか。また、なぜこのような事業が可能であったのだろうか。

Q1 西アジア以外の地域では、どのような身分の人々が統治をおこなったのだろうか。また、統治者と宗教はどのような関係にあるだろうか。

Q2 資料に対する疑問や興味、または関心のある視点にもとづいて、自分自身で第Ⅰ部への問いを立ててみよう。

テーマに即した図版・文字資料の読み解きを積み重ねることで、部の学習内容に対する考察を広げられるようにしました。

部を貫く視点や概念の一例として、第Ⅰ部では**身分・階級や王権と宗教**との関わりを、第Ⅱ部では**ヒトやモノの移動や経済**との関わりを、第Ⅲ部では**マスメディア**について取り上げました。

Ⅱ部を学ぶ前に 諸地域はどのように交流し、また再編を進めたのだろうか？

第Ⅱ部で学んだ諸地域は、交流を活性化させ、相互に影響を与えつた。再編を進めていく。こうした動きは、交易の拡大や都市の発達、文化・技術の伝播など、第Ⅱ部と同様に様々な視点から考えることができる。ここではその一例として、ある現代の社会学者が考えた、13世紀における各地の経済ネットワークを8つの分類した地図を手がかりに、資料とあわせてヒトやモノの移動について考えてみよう。

13世紀における各地の経済ネットワーク（アフリカ・ヨーロッパ・アジア）

図から、当時の人々はどのようにしてモノやヒトを移動させていたのだろうか。また、これはどのようなネットワークに繋がっているのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

図はどのネットワークに繋がっているのだろうか。また、どのような交通手段が利用されていたのだろうか。

Ⅲ部を学ぶ前に 諸地域の結合・変容は、どのように進んだのだろうか？

第Ⅲ部で扱う諸地域の一体化や相互依存の深まりは、様々な面で進行した。なかでも、情報伝達手段の革新や技術の発展、とくに印刷技術の普及が新聞やラジオといった、多数の情報を提供できるマスメディアが誕生したことは、世界史における1つの画期的な出来事である。ここでは、様々な資料をもとに、メディアが人々の生活や社会におよぼした影響について考えてみよう。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

図はどのようなメディアが利用されていたのだろうか。また、それはどのような役割を果たしていたのだろうか。

資料に対する疑問や興味、または関心のある視点にもとづいて、自分自身で第Ⅲ部への問いを立ててみよう。

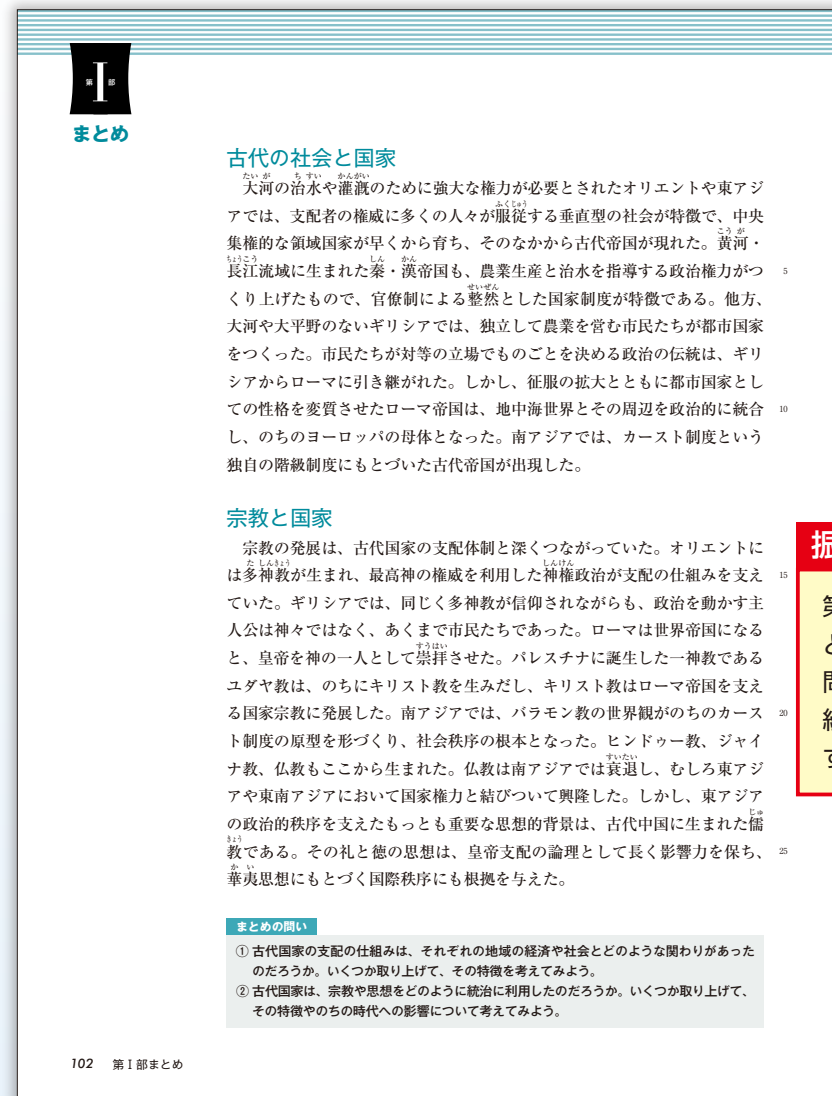
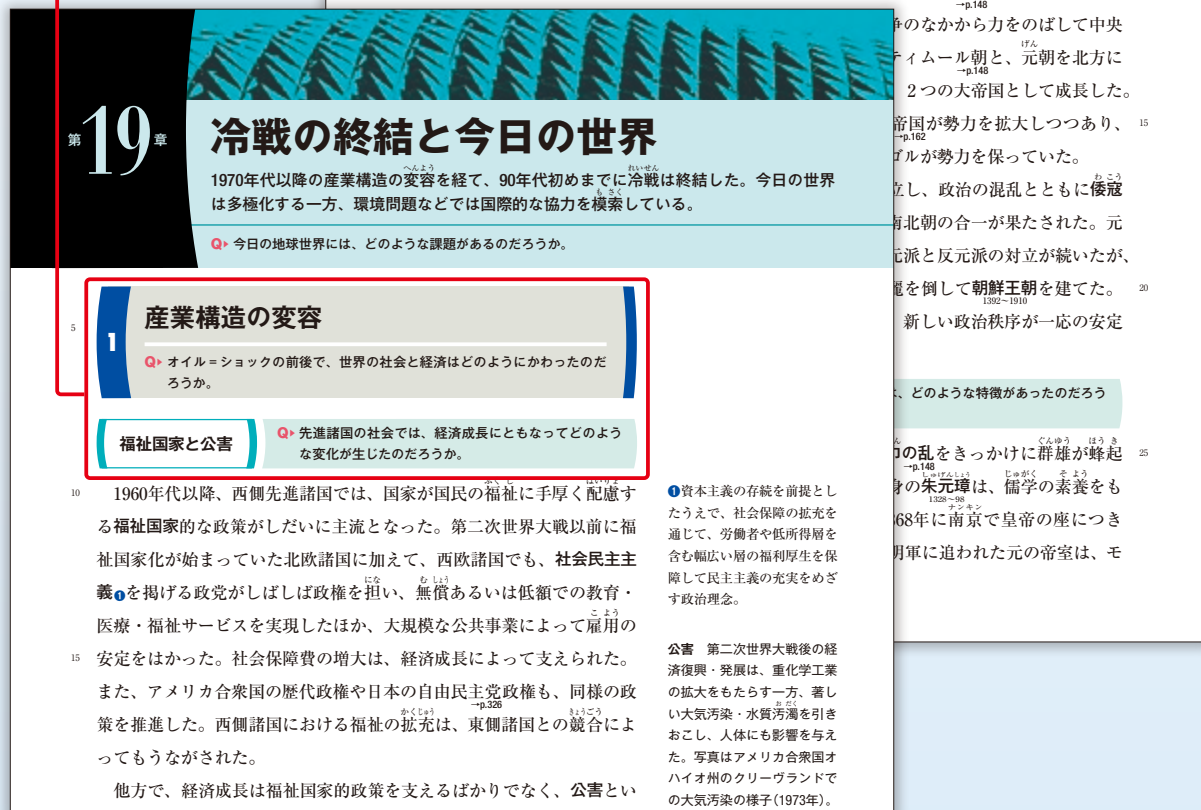
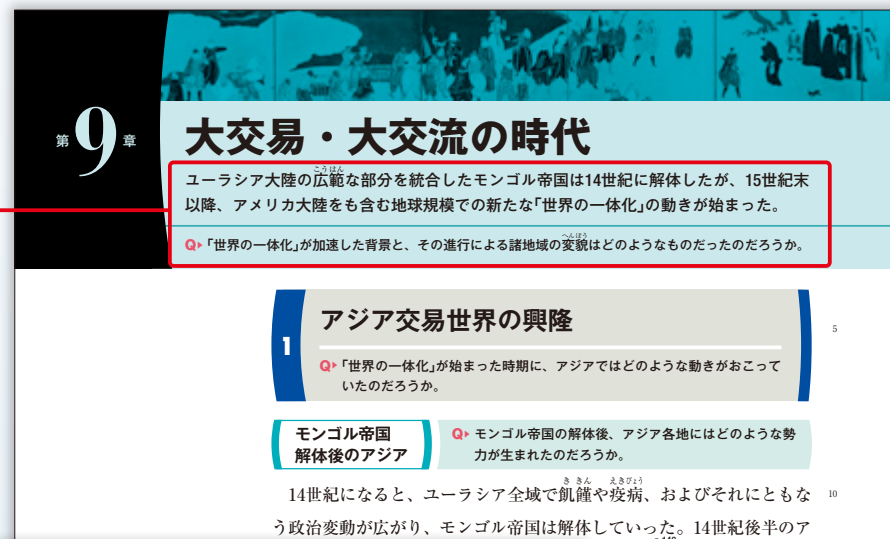
考察をまとめ、さらに生徒が自ら部の学習に対する問いや目標を立てることができるよう工夫しています。

2. 時代の特色をつかむ多様な問いかけ

充実した「問い」「まとめ」「コラム」

「問い」の新設

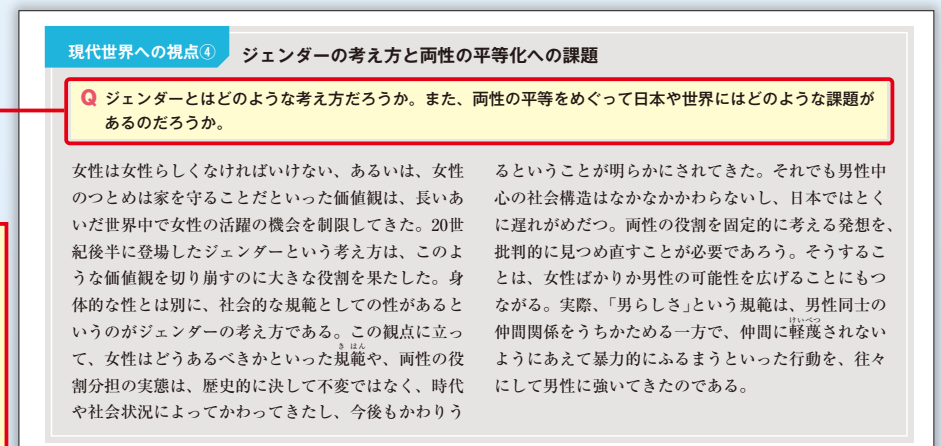
- ・章冒頭に、章内容の概観と、それを理解するためのヒントとして「問い」を設けています。
- ・節・小見出し冒頭にも「問い」を設け、学習の内容や目的を明確化しています。「問い」は本文を読んで解答可能な内容にしました。
- ・節・小見出しの「問い」の解答例は「教師用指導書 授業実践編」➡p.22に掲載しています。



コラム「現代世界への視点」

第19章には現代世界の課題を歴史的に扱うコラム「現代世界への視点」を設けて、世界史探究のゴールとなる「地球世界の課題の探究」につなげられるようにしました。

コラムや史料にも、読み解きの一助となる「問い」を設けています。
➡p.13



振り返り学習の「まとめ」

第Ⅰ部～第Ⅲ部の終わりに「まとめ」を設けました。「まとめの問い」とあわせて、世界史の枠組みやその展開を構造的に理解する一助としています。

3. 探究活動に取り組みやすい大きな図版・豊富な史資料

図版・史資料の充実

判型を大きくし、図版や史料を豊富に掲載しました（写真・地図約600点、図表・文字資料約100点）。

世界と日本のつながり

歴史的な背景や因果関係をわかりやすく説明し、世界と日本のつながりも配慮しています。



観星台(元代の天文台) 郭守敬は中国各地に設けられた観星台において、西アジアの天文学の技術を取り入れつつ、精密な天体観測をおこなった。そのデータにもとづいてつくられた授時暦は、日本にも受容された(江戸時代の貞享暦)。



新安沈船 韓国南部の新安沖からみつかった、元の時代の沈没船。いわゆるジャンク船で、日本の寺社名を記した木簡の荷札とともに、膨大な数の陶磁器や宋の銅銭が発見されている。



銀錠 モンゴル帝国で流通した銀塊は、約2kgが基本単位であった。形状は様々だが、同じ重さのものが世界各地から出土している。2kgの銀錠を「元宝」と呼ぶ習慣は、このうち中国に残った。

広州などが元の支配下に入り、山東半島を経て大都に向かう海運と、杭州と大都を直接つなぐ新しい運河によって、豊かな江南もモンゴル帝国の商業圏に組み込まれた。こうして、大都を結節点に、陸路と海路の交易・情報ネットワークが結合された。また、クビライが樺太・日本やベトナム・チャンパー・ビルマ・ジャワなどに送った遠征軍は各地域の政治や経済・文化に大きな影響を与え、商業圏の拡大にも寄与した。

モンゴル帝国における陸と海の交易を担ったのはおもにムスリム商人で、ユーラシアで広くおこなわれていた銀経済(銀による決済)が中国にもおよんだ。元は塩の専売を実施したほか、取引税などによって莫大な銀を集め、紙幣(交鈔)を発行して銀の流通量の不足をおぎなった。利用価値が低下した銅銭は、日元貿易を介して、日本へ輸出された。

元の統治は中国的な官僚制度によってなされたが、中枢はモンゴル人が握った。色目人と総称される中央アジア・西アジア出身者は、経済面で力をふるった。金の支配下にあった契丹人・女真人を含む華北の人々は漢人、南宋のもとにいた人々は南人と呼ばれた。商業に力を入れた元は支配地域の社会や文化をさほど重視せず、儒学や科擧の役割は大きく後退したが、暦の改良や大都の水運整備に従事した郭守敬のように、実用的な能力のある者には登用の道が開かれていた。支配層のモンゴル人にはチベット仏教が重んじられ、都市の庶民のあいだでは「西廂記」「琵琶記」に代表される戯曲が流行した(元曲)。



交鈔 この写真のものはクビライ時代の年号が入っている。額面は様々で、これは銅銭2貫分の価値(もと銀錠の50分の1に相当)とされたものである。ただし、交鈔の実際の価値は大きく変動した。

146 第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国

秦・前漢時代のアジア

「塩鉄論」禁耕

そもそも秦・楚・燕・齊では、土地の肥沃さや硬さが異なります。農具の大きさや形状も地域ごとに違い、それぞれ適したものがあるのです。ところが「国家が鉄器の製造を一手に握り、規格を統一してしまったので、鉄製農具は使いにくくなり、農民も不便を強いられることになりました。おかげで農民は耕作に疲れ、土地は荒れ放題となって、みな困窮しております。」(著者訳)

を進めたが、こうした集権的な政策は、匈奴との戦いなどあいつぐ外征による社会不安や財政難への対応でもあった。しかし、徳や礼を重んじ

ヴェネツィアから出発するマルコ・ポーロの一行(右手中ほどの小舟に乗ろうとしている一行)『世界の記述』では日本についても述べられており、日本は黄金や真珠に満ちた豊かな島ジパングとして、ヨーロッパに知られることになった。



「混一疆理歴代國都之図」 15世紀初めに朝鮮でつくられた世界地図。交易活動がもたらしたモンゴル時代の地理的知見をふまえており、ヨーロッパ人による「発見」に先だって、アフリカ大陸(左端)南端の喜望峯(→p.158)を描いている点などが注目される。図はのちの時代の模写。

モンゴル帝国時代の東西交流

この時代の東西交流には、どのような新しさがあったのだろうか。



「混一疆理歴代國都之図」

デジタルの活用

ユーラシア東西の統合が実現すると、ヒト・モノ・カネの交流が活発化した。中央ユーラシアでは、仏

二次元コードを掲載し、図版の全体図や部分拡大、別部分(「清明上河図」〈教科書140頁〉、サン=ヴィターレ聖堂のモザイク〈教科書123頁〉など)、追加の文字資料などを利用できるようにしました。

遷移画面例



トータルサポート

世界史探究『詳説世界史』関連教材です。
授業準備からテスト・評価まで、豊富な教材で世界史探究をトータルサポートいたします。



詳説世界史10分間テストの採用特典

〈小テスト作成用Excel〉の
イメージ動画をご用意しました。
こちらをご参照ください。

小テスト作成用Excel
イメージ動画



約13,000点の地歴コンテンツを配信

Webの社会科準備室
**山川&二宮ICT
ライブラリ**



授業準備・授業

テスト・評価

定番の補助教材

→p.34

先生用教材コンテンツ

教師用指導書 授業実践編 付属データ集 →p.28

PDF 教科書紙面	JPEG 地図・図表	PowerPoint 授業用 スライド	PDF 詳説世界史 授業用整理 ノート	Word
Word 本文・注・ 史料テキスト	Excel 問い・解答例 一覧	JPEG 白地図集	Word 授業用 スライド対応 ワークシート	Word 板書例 テキスト

Word

準拠テスト例

Word
準拠テスト例対応
ループリック

PDF
指導書紙面

Excel
年間指導計画例
評価規準例

世界史探究（新課程）

詳説世界史 図録 第5版 →p.34

ご採用特典

PDF 紙面	JPEG 白地図	Word 史料・地図問題
------------------	--------------------	------------------------

書きこみ教科書 詳説世界史 →p.37

世界史B

世界史用語集
新課程版は23年12月刊行予定

世界史用語集 アプリ付き

世界史マスター問題集
新課程版は23年秋刊行予定

山川一問一答 世界史
新課程版は24年春刊行予定

よくでる一問一答 世界史
※アプリ付き
新課程版は24年夏刊行予定

教師用指導書 研究編 →p.27

指導者用 デジタル教科書 →p.90

準拠教材 ご採用特典

PDF 詳説世界史 ノート	Word 詳説世界史 授業用整理ノート
----------------------------	----------------------------------

準拠教材 ご採用特典

PDF 詳説世界史 10分間テスト ※Excelは小テスト作成用	Word 詳説世界史 スタンダードテスト
--	-----------------------------------

予習・授業

テスト対策・復習

- ・小テスト作成用 **Excel** は、簡単な操作で10問程度の小テストが作成できます。問題文のシャッフルや解答の表示／非表示も可能です。
※写真・地図・図版問題は収録していません
- ・準拠ノート紙面 **PDF** は、解答あり／解答なしの2種類をご用意いたします。
※一部を除き、許諾上の理由から写真は掲載していません
- ・解答欄 **Google Forms** 版はタブレット等への配信と解答の集計が可能です。
※ご利用にはGoogleアカウントが必要になります

生徒用教材コンテンツ

学習者用 デジタル教科書 →p.90

詳説世界史 ノート →p.32

詳説世界史 授業用整理ノート →p.33

詳説世界史 10分間テスト →p.35

詳説世界史 スタンダードテスト →p.36

詳説世界史

関連教材

教師用指導書 授業実践編

世探704準拠

B5判・432頁・2色刷・付属データ集DVD-ROM付 定価22,000円（10%税込）

『詳説世界史』を使った授業実践にご活用いただける材料を盛り込みました。

第2章

中央ユーラシアと東アジア世界

第2章の目標

- 中央ユーラシアと東アジアの歴史的特質を理解する。従来東アジア、とくに中国の王朝交替を中心とした国家形成の理解にとどまらず、中央ユーラシアの歴史との関わりに着目して相互の社会、宗教、文化などの特徴に気づくことができる。
- 秦・漢と匈奴や鮮卑といった遊牧国家、唐とウイグルや吐蕃、日本や朝鮮といった、中国王朝とその近隣諸国家との関係について課題を設定し、考察、表現することができる。



板書例データ

第1節 授業の進め方と指導上の留意点

- 中央ユーラシアの風土…中央ユーラシアの地勢を概観し、その特質とどのような人々が環境に適応していったのかを理解させて、(2)・(3)および(4)の学習につなげる。
- 遊牧民の社会と国家…遊牧民の基本的な生活様式、騎馬遊牧民の軍事的特色や国家形成の過程を理解させる。
- スキタイと匈奴…(2)の具体例として、スキタイ文化の特色、遊牧国家匈奴の動向、および遊牧民の活動の活発化が中央

ユーラシアの東西に引き起こした変動を理解させる。

- オアシス民の社会と経済…中央アジアのオアシス民の生活とオアシス都市の特色、中国と抗争を繰り返した遊牧国家との互恵の関係について理解させる。

【留意点】騎馬遊牧民の活動や遊牧国家に関しては、単に(2)で扱う戦力能力の優位性や(3)で扱うその影響などのみを強調することなく、(4)で扱う互恵の関係といった広範な東西ユーラシアの農耕民との関係性に留意して指導すること。

導入

- ①p.38の「遊牧民の生活風景」の図版を示し、ゲルや羊について触れながら中央ユーラシアの広大な草原における遊牧民の生活への関心を高める。
- ②p.40の「カナートの構造図」と「オアシスの景観」の図版で水利構造を説明し、オアシス国家への興味を高める。

1節Q解答例 中央ユーラシアの騎馬遊牧民はその軍事力で、オアシス民は交易の担い手として、ヨーロッパ・西アジア・南アジアの諸地域と中国を中心とする東アジアを結びつけ、各地域の歴史的展開に大きな影響を与えた。

解答例 広大な草原地帯に暮らす遊牧民は遊牧と狩猟生活を基盤とし、オアシスの定住民は雪解け水を利用した灌漑農業と交易に従事した。

発問例 中央ユーラシアの風土にはどのような特徴があるだろうか。

解答例 バミールに連なる大山脈が季節風(モンスーン)を遮ることで生じ、乾燥し、寒暖の差が大きい大陸性気候が特徴。北方には東西にわたって広大な草原が連なっている。南方にはいくつかの砂漠が広がり、そこには高山地帯の雪解け水などを水源とするオアシスも点在している。

地図 中央ユーラシアの地勢と遊牧諸勢力の移動 タリム盆地を中央に、東はゴビ砂漠から中国東北方、西はカスピ海から黒海沿岸、北はシベリア平原、南はヒマラヤ山脈に囲まれた中央ユーラシアの地勢を大まかに把握させる。また、同地でもっとも強勢を誇った匈奴、月氏を駆逐してイリ地方に移った烏孫、月氏が匈奴・烏孫の圧力でソグディアナに移って大月氏となり、インドのクシャーナ人がその流れを汲むといった各民族の移動の過程を、鮮卑・フン人とともに概観させたい。

63

第2章

中央ユーラシアと東アジア世界

匈奴の国家と秦・漢が現れた紀元前3世紀以降、ユーラシアの東側には、遊牧と農耕の2つの世界が並び立った。7世紀、可汗と皇帝を兼ねた唐の君主がこれらを統合した。

Q 2つの世界はそれぞれどのような特徴をもつ社会を形成し、またどのような関係にあったのだろうか。

中央ユーラシア——草原とオアシスの世界

Q 中央ユーラシアの人々の動向は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。

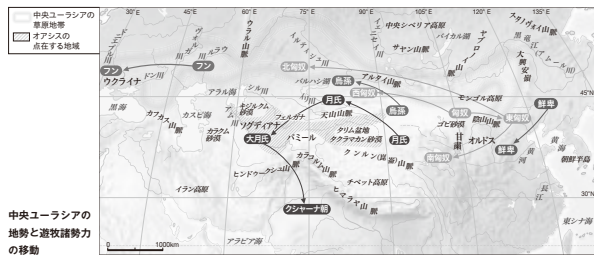
中央ユーラシアの風土

Q 中央ユーラシアの風土に適応して、人々はどういう生活を送るようになったのだろうか。

- ユーラシア大陸の中央部は、バミールの東西にのびる大山脈が高温多湿のアジアの季節風(モンスーン)をさえぎるために乾燥し、寒暖の差が大きい大陸性気候を特徴とする。ここには東のモンゴル高原から西の黒海北岸にかけて広大な草原が連なり、その南にはいくつもの砂漠が広がっている。そして、砂漠のあいだには高山地帯の雪解け水を水源とする
- 中央アジアのオアシスが点在する。この広大な空間を中央ユーラシアと呼ぶ。ここでは、きびしい環境に適応した草原の遊牧民や、オアシスの定住民が活躍し、彼らは周辺の諸勢力と様々な関係を結びながら世界史の展開に大きな役割を果たした。

ユーラシア大陸中央部の地域名称。その範囲は一定ではないが、バミールの東西に広がる砂漠、オアシス地域と北部の草原地帯を中心とする。現在では、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン、キルギス、中国の新疆ウイグル自治区などの地域にあたる。

中央ユーラシアの地勢と遊牧諸勢力の移動



7

1. 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界 37

6

解説 物価調整策 均輸・平準の政策が打ち出されるまで、中央官府は地方から納められた銭によって、長安で物資を買い付けていた。当然、長安一帯では物資が欠乏し、物価もひどく高かった。物資の調達価格が高ければ、国家の支出は多くなる。そこで、国家が地方から集める品目を銭以外の物資にまで拡大し、物価を一定水準に保ったのが平準である。同時に、物流を効率化して無駄な輸送コストを削るため、全国各地に担当官を配置し、管轄範囲内の郡県から集めた物資を長安に一括して送らせるとともに、各地域で物資が不足した場合には、中央からだけでなく地域間でも融通しあえるようにした。これが均輸である。大幅なコストカットは財政改善に寄与したが、民間の遠隔地交易と競合したので、人々からは不満の声も上がった。

地図 秦・前漢時代のアジア この地図では、秦と比較して漢が西側に支配領域を拡大していった理由を考えさせたい。バルティアの西方には大国ローマがあり、漢は中央ユーラシアの交易ルートに沿って領土を広げた。張騫の報告により西域の事情が判明すると、武帝は河西回廊と呼ばれたオアシス地帯に武威(この都市は地図にはない)・張掖・酒泉・敦煌の4郡を設置し、拠点とした。武帝が平定した南越や朝鮮半島の楽浪、後漢時代に「大秦王安敦」の使節が到達した日南の位置なども確認できる。また遊牧国家の領域を明示することは難しいが、新たに匈奴の最大領域を示している。

解説 武帝の外征 武帝の積極的な対外政策の背景には、匈奴や南越との対抗関係だけでなく、皇帝と王との対立、困窮した農民の増加といった国内の諸課題があった。武帝は匈奴との戦争を口実に王の権限を奪って集権化を進めつつ、匈奴を撃退して獲得したオルドスに貧困者を開拓民として送りこんだ。そのようにして高まった国力と精強化した軍隊を利用して、南越や朝鮮を征服し、東方・南方の安定化をはかったのである。

解説 王莽が築いた新たな体制 p.62「留意点：漢における儒教や王莽の扱い、評価など」参照。

解説 黄巾の乱はなぜ後漢を滅亡させたか こ

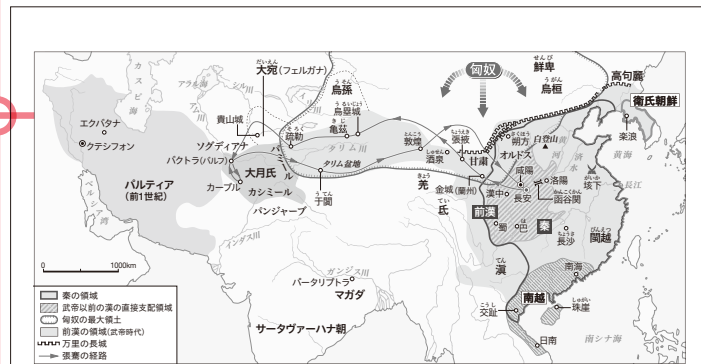
8

史料 『塩鉄論』禁耕 武帝の子・昭帝の時代、朝廷において専売制の是非を問う「塩鉄会議」が開かれ、酒の専売が廃止された。『塩鉄論』はこの会議での官僚と学者のやりとりを描いた書物で、昭帝に続く宣帝の時代に桓寛によって編まれた。この一節は学者の発言である。

専売制は武帝の外征がまねいた財政窮乏を立て直すための経済政策として説明されることが多いが、実は南越・朝鮮の征服や河西への進出に先立って施行されたもので、むしろ王国を経済的・軍事的に抑えてむ側面が強い。とくに鉄については、製鉄技術の向上にもなって武器材料としての重要性が高まっていたため、その生産・流通を国家が管理し、敵対勢力の手に渡ることを防ぐことには意義があった。一方で、地域の実情を考慮せず画一的につくられた鉄製農具は、当時の人々の目に強引な統一政策の象徴と映ることもあった。

史料Q解答例 地域の実情を考慮せず画一的につくられた鉄製農具のように、国家による集権的な政策であった。

補足 塩・鉄の専売は南越国・衛氏朝鮮の征服や河西への進出に先立って施行されたもので、財政再建策というよりも、諸王国の統治に干渉して国内の経済的統合をはかる政策としての性格が強かった。またそれと同時に、武器材料に転化しうる鉄の生産・流通を国家の管理下におくという意味で、軍事面における諸王国への「干渉」でもあった。



秦・前漢時代のアジア

『塩鉄論』禁耕

Q これは、武帝の死後に役人と学者が塩・鉄の専売の是非を議論した記録である。この一節から、鉄の専売はどのような意味をもっていたと考えられるだろうか。

そもそも秦・楚・燕・齊では、土地の肥沃さや硬さが異なります。農具の大きさや形状も地域ごとに違い、それぞれ適したものがあるのです。ところが国家が鉄器の製造を一手に握り、規格を統一してしまったので、鉄製農具は使いにくくなり、農民も不便を強いられることになりました。おかげで農民は耕作に疲れ、土地は荒れ放題となって、みな困窮しております。

(著者訳)

1章の目標 章ごとに、学習の柱となる目標を示しました。

2授業の進め方と指導上の留意点 授業展開の一例を節ごとに示し、その際の留意点も付しました。

3板書例 付属データ集DVD-ROMに収録しています。二次元コードからのダウンロードも可能です。

4導入 授業導入時の展開の仕方などについて解説しています。

5「問い」の解答例 教科書本文中の節・小見出しの問いの解答例を示しています。また適宜、授業展開の中で活用できる発問例とその解答例をプラスで示しています。

6解説 教科書本文中の地図・図版に解説を付し、重要用語についても適宜解説しています。

7教科書紙面画像 教科書本文の縮小画像を挿入しています。

8史料解説 教科書本文中の史料について、出典や詳細などを解説しています。また、史料に付いている「問い」に対する解答も付しました。

各章の冒頭には、とくに章全体に関わる解説や注意すべき変更点の解説を設けました。

2

中央ユーラシアと東アジア世界

第2章の視点

中央ユーラシアと東アジアの叙述のしかた

近年、中央ユーラシア東部と東アジアの歴史を一体として捉える見方が強まり、両者を総称した「東部ユーラシア」「ユーラシア東方」などの用語も定着しつつある。その背景には、新史料の発見や利用される史料の多様化、考古学・人類学・言語学など隣接分野との協働の深化によって、漢文典籍に依拠した旧来の中国中心主義的な史観が揺らいでいることがある。並行して、漢文史料そのものの史料批判も急速に進められ、いわゆる「中国史」の理解にも著しい変化がおこっている。新課程版の第2章では、中央ユーラシア東部・東アジア両地域それぞれの歴史展開だけでなく、双方の関係が深まり、やがて一体化されていくプロセスを俯瞰できるよう、関連する記述や図版を増やし、地図にも情報を盛り込んだ。

本章でもにも扱われる前3世紀から後9世紀にかけての、中央ユーラシア東部と東アジアの関係史を捉えるには、おおよそ4世紀・7世紀頃を境として、3つの時期に分けて考えるのがわかりやすい。

①並立の時代（前3世紀～後3世紀） 前3世紀後半、モンゴル高原に匈奴帝国、中国に秦という広域政権が現れ、中央ユーラシア東部と東アジアがそれぞれ大きくまとめられた。秦による中国支配が崩れたのち、匈奴の冒頓単于が漢の高祖を大破した前200年の白登山の戦いを機に、匈奴は漢を属国とした。前2世紀後半、漢の武帝は匈奴から自立して反撃を開始し、他方で中国全域に支配を広げた。一方、匈奴は内紛により東西に分裂し、前1世紀半ばに東匈奴は漢に服属した。このように、匈奴も漢も相手を屈服させることこそあったが、中央ユーラシア東部と東アジアが一つの世界として意識されるにはいたらなかった。両地域の勢力が一定の距離を保ちつつ並立する形勢は、4世紀初めまで続く。

②二重の南北朝時代（4～6世紀） 3世紀頃から、中央ユーラシア東部から華北への遊牧民族の移住が増加した。北半球の寒冷化傾向が著しくなって高緯度地帯での遊牧経営がきびしくなったことに加え、2世紀末から華北で顕著になった軍閥の抗争も、軍勢力に長けた遊牧民族を傭兵として呼び込む要因となった。華北では4世紀初頭まで漢人が主導権を握っていたが、八王の乱を契機に南匈奴の劉淵が西晋から自立し、310年代には洛陽・長安が陥落して（永嘉の乱）、華北を喪失した漢人政権

第2節 授業の進め方と指導上の留意点

- 「皇帝」の出現…新たな君主の称号「皇帝」を名乗った始皇帝による統一事業と郡県制を柱とする支配体制を理解させ、制度の多くを引き継いだ（2）の学習につなげる。
- 漢代の政治…前漢武帝期の対外戦争や集権的な政策、王莽の儒学の理想にもとづく政治体制、後漢の再統一とその衰亡の過程を理解させる。
- 漢代の社会と文化…豪族の台頭とともに（1）の支配理念であっ

た法家思想にかわり、儒教にもとづく国家体制が確立したと、皇帝を中心に多様な地域が統合されて冊封体制の原型が成立したことを理解させる。

【留意点】（1）で扱う皇帝を中心とした巨大国家が誕生した意義を強調することとどまらず、（2）（3）で扱う武帝時代や王莽の改革、統一国家を支える文化の発展が中国に約2千年続くことになる儒教的な支配を形づくっていったことに留意して指導すること。

オアシスの景観（トゥルファン） オアシスは水利施設であるカナールで獲得できる水量によって規模が定められる。本図のトゥルファンは、場所が海拔0m以下で、年間降水量は20mmにも満たないが、上る北方の天山山脈からの雪解け水を引きいているため、水路に沿って緑ののびる。オアシスの発展はその規模と発展過程により以下の類でできる。まず基本となるのが①オアシス農村で、その貯水池・定期市場をもったものが②バザール＝オアシスとなる。さらに、居住区で囲まれた要塞があり、神殿や常設市場をもったものが③オアシスの規模が拡大して居住地域が発展し、幾重にも城壁が築かれたものが大都市国家となる。



オアシス

中央アジアのオアシス民は、しばしば遊牧国家による略奪や支配を受けたが、両者の関係はつねに敵対的であったわけではない。オアシス民の生み出す穀物や織物は、遊牧民のたたらす畜産物と日常的に交換されたほか、遊牧国家が保障した陸南路の安全は双方に経済的な利益をもたらした。このように遊牧民とオアシス民との関係は、緊張をはらみつつも互恵的であり、それは中央ユーラシアにとどまらず、東アジアの歴史の展開にも重要な役割を果たした。

2 秦・漢帝国

① 秦・漢の時代に、地域間の結びつきはどのように変化したのだろうか。

「皇帝」の出現

① 新たに現れた「皇帝」は、それまでの「王」とどのように異なるのだろうか。

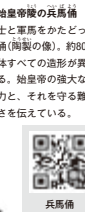
前4世紀、「戦国の七雄」の一国であった西方の秦が、新しい政治制度や技術を取り入れて強化した。東方の諸国は他国と同盟を結んで自国の防衛をはかったが、前221年、秦王の政に征服された。彼は国内を郡・県にわけて官僚を派遣する郡県制を征服地にも導入し、新たな君主

中央ユーラシアと東アジア世界

教科書本文において従来の説が変更されたり、新説が採用された箇所については、とくに詳細な解説を付しました。

① 図版 始皇帝陵の兵馬俑

1974年3月、陝西省西安郊外にある西楊村の農夫が井戸を掘っている時に地下4～5mの所で発見した。翌年からの本格的発掘で秦の始皇帝の陪葬墓の一つであることが判明し、1号兵馬俑坑と呼ばれた。東西230m、南北62m、高さ5m余りで、現在は保護のため全体をドームで覆っている。ついで2号・3号が発見され、3カ所から車兵・騎兵・歩兵1400体以上、馬・戦車など多くの出土品を数えた。これらの兵士は、1.8m前後で等身よりやや大きい、一体一体の表情が異なり、極めて写実的である点が人々を驚かせた。2009～12年の最新調査で発掘された多数の俑には、掲載した二次元コードで見ることのできる図版のように、紀元前3世紀の塗料が色あせずに残っていることが判明した。肌はピンク色が多いが、黄褐色のものもあり、目の色だけでも黒・灰褐色・赤などさまざまなものがある。以前に発掘された兵馬俑のなかにも多少色が残っているものもあったが、顔料が酸化して色がほとんど失われてしまっていた。しかし、今後は中国とドイツの専門家チームが開発した退色を防ぐ薬剤により鮮やかな色彩を保てるといわれている。二次元コードの兵士像からは、それぞれの人物の顔や衣装が位階などによって異なっていることに気づかせたい。また3枚目の銅車馬は実物の2分の1で製造された「安車」と呼ばれているもので、巡幸の際には副官クラスが乗った馬車を再現したものである。



秦・漢の青銅貨幣 秦の半両銭（左）と漢の武帝の時代に発行された五銖銭（右）。円形・方孔の銅銭は、始皇帝の征服活動によって東方に広まり、漢に受け継がれて東アジアの貨幣の基本形となった。

② 漢の初期の支配体制を、郡県制と封侯制（→p.32）を併用したという意味で、「郡国制」と呼ぶこともある。【解説】 秦末の混乱期に独立した国家で、広東・広西・ベトナム北部を中心に、その周辺にまで勢力をおよぼした。 ③ 前2世紀に南氏が朝鮮半島北部に建てた国家。武帝はこれを征服して楽浪などの郡をおいた。 ④ 各地の特産品を国家がほかの地方へ輸送して物価を均一にする政策（均輸）と、貯蔵した産物の価格が上がるのを売り出し、下がると買い入れて、物価の水準を保つ政策（平準）があった。

① 図版 秦・漢の青銅貨幣 秦の半両銭は7.5gの円形方孔銭で、キャプションにあるように、その後の東アジア鑄造貨幣の基本形となった。なお、従来は秦の始皇帝が貨幣を統一したと多くの教科書で説明されていたが、こうした統一政策の実態については通説が修正されつつある。前221年におこなわれた車軌・度量衡の統一とは、秦が以前から使用していた規格を全国的に適用する制度として再確認したもので、新規規格がつくられたわけではなかった。しかも、貨幣についてはそうした再確認すらおこなわれた形跡がなく、始皇帝自身が貨幣制度に手を加えたとの記録もない。このことから、始皇帝が貨幣統一をおこなったという従来の説明は、今日では妥当でないと考えられている。そもそも、車軌や度量衡にしても、あるいは文字にしても、その「統一」の直接の影響を受ける範囲は、行政や徴税などに従事する官吏に限られる。このことから、始皇帝の統一政策の狙いはあくまでも行政システムの画一化にあり、商取引など民衆の生活に関する分野のことは意識されていなかったとする見解もある。

② 解説 「郡国制」の捉え方

近年の研究によると、項羽を倒した漢王劉邦は、みずから皇帝に推戴したほかの王（漢代の呼称では「諸侯王」）たちとの「共天下」（天下の共同統治）を標榜した。各王国は独自の年号や財政・官僚組織をもつ、事実上の独立国だった。この点を重視し、「郡国制」を漢の国内制度ではなく、漢を盟主とする諸王国が形成した国際体制とみなす見解もある。 呉楚七国の乱ののち、漢は王国の内政への干渉を強めたが、共天下の建前は武帝初期まで維持された。王が名実ともに漢の国内諸侯になったのは、匈奴を退けて諸王国より優位に立った漢が王国の特権を奪った武帝中期以降のことである。新課程版では、このような新しい研究動向を盛り込んだ記述とした。

【解答例】 漢の初期の支配では無為を尊ぶ黄老の政治思想が重視され、「郡国制」と呼ばれるシステムがとられたが、漢の諸王国への干渉がだいに進み、武帝の時に実質的に郡県制へと移行した。儒学がだいに盛んになると、行き過ぎた集権的な政策は改められ、天に仕える皇帝が徳によって多様な地域を統合する体制が王莽によって築かれた。

③ 解説 南越国 南越国は秦の地方長官が自立して建てた国家であるが、制度や文化の面では、楚・越など長江流域の伝統を受け継いでいた。たとえば、1983年に広東省広州市で発見された「文帝行璽」金印は、南越の支配者が「文帝」という美称を生前から用いていたことを示している。黄河流域においては、支配者の死後に臣下が称号を奉る「諡号」の習慣が定着していたが、楚では支配者がみずから美称を用いることになっていた。また、「文帝行璽」の材質が金であったことも、玉製の印を皇帝印と定めた秦や漢の制度と異なっている。劉邦に敗れた項羽の政權もこうした南方系の制度・文化に根ざしていたと考えられているが、南越はそれを長期的に維持し、現在の福建・貴州・広西・雲南・ベトナム北部など広い範囲に影響を与えた。なお、長江流域では、のちの呉や南朝においても、皇帝印の材質として金を用いられた。



2 秦・漢帝国 41

教師用指導書 授業実践編 付属データ集

世探704準拠



『教師用指導書 授業実践編』にはデータ集DVD-ROMが付属します。
授業準備やテスト問題の作成に、ぜひご活用ください。

付属データ集DVD-ROM 収録予定コンテンツ一覧

教科書データ	①教科書紙面	PDF	教科書全ページの紙面データ
	②教科書本文・注・史料テキスト	Word	本文・注・史料のテキストデータ
	③教科書掲載地図・図表	JPEG	カラー・モノクロ2種の画像データ
	④教科書掲載問い・解答例一覧	Excel	問いと解答例の一覧
	⑤指導書紙面	PDF	指導書全ページの紙面データ
	⑥板書例テキスト	Word	板書例のテキストデータ
	⑦年間指導計画・評価規準例	Excel	カリキュラムにあわせて加工が可能
教科書準拠教材	⑧授業用スライド	PowerPoint	教科書の節ごとに構成 問いの解答例も収録
	⑨授業用スライド対応ワークシート	Word	スライドに対応したワークシート
	⑩準拠テスト例	Word	小問ごとに観点別評価を明記 テストに対応したルーブリック(評価規準表)例付き
	⑪準拠ノート	PDF Word	『詳説世界史授業用整理ノート』の紙面データ
	⑫白地図集	JPEG	プリント用・黒板用2種の画像データ

①教科書紙面 PDF ②本文・注・史料テキスト Word ③地図・図表 JPEG

- 教科書全ページの紙面PDF、本文・史料のテキストデータ、地図・図表データを収録しています。プリントやスライドの作成などにご活用いただけます。

1 文明の成立と古代文明的特質

農耕・牧畜が始まると、大河流域を中心にエジプト文明・メソポタミア文明・インダス文明・中国文明などが栄えた。アメリカ大陸中・南部にも独自の古代文明が生まれた。

各地の古代文明はどのような特徴をもっていたのだろうか。また、それらに関連する特質は何かだろうか。

文明の誕生

自然環境の変化をきっかけに、人々の生活や社会はどのように変化したのだろうか。

農耕と牧畜のはじまり

約1万年前に氷期が終わると地球は温暖化し、自然環境が大きく変化したため、人々は地域ごとの多様な環境に適応していった。そのなかでもっとも重要だったできごとは、約9000年前の西アジアで、麦の栽培とヤギ・羊・牛などの飼育が始まったことである。これが農耕・牧畜の開始である。これにより人間は積極的に自然環境を改造する能力を身につけ、食料を生産する生活を営みはじめた。人類史は、狩猟・採集を中心とした獲得経済から、農耕・牧畜による生産経済に移るという重大な変革をとげたのである。その結果、人口は飛躍的に増え、文明誕生の基盤が整った。

農耕・牧畜が始まると、人間は集落に住み、織物や土器をつくり、また石斧・石臼などの磨製石器を用いた。新石器時代の始まりである。

おもな古代文明とその源流

①アメリカ大陸に「新石器時代」という時代区分はないが、農耕は古くからおこなわれていた。

②メソポタミア文明の中心地は、ユーフラティスとティグリスの間にあり、両河の合流地である。この地域で農業が発達し、多くの人口を養った。農耕・牧畜は、多くの人口を養った。農耕・牧畜は、多くの人口を養った。

③メソポタミア文明の中心地は、ユーフラティスとティグリスの間にあり、両河の合流地である。この地域で農業が発達し、多くの人口を養った。農耕・牧畜は、多くの人口を養った。

⑧授業用スライド PowerPoint

- 教科書の節ごとに構成されています。
- 学習のポイントを明示し、要点を理解しやすく工夫しています。
- 授業スタイルにあわせて編集が可能です。

詳説世界史p.20～28

第1章 文明の成立と古代文明的特質

2 古代オリエント文明とその周辺

Q 古代オリエント文明は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。

1-2 古代オリエント文明とその周辺

メソポタミアの統一と周辺地域の動向

Q 復讐法の原則がみられる条文はどれだろうか。また被害者の身分によって刑罰に差があるのはなぜだろうか。

ハンムラビ法典

1-2 古代オリエント文明とその周辺

オリエントの風土と人々

オリエント：ヨーロッパからみた「日ののぼるところ、東方」
西アジアからエジプトにかけての地域

ティグリス川
ユーフラテス川
ナイル川など大河の流域
…定期的な増水を利用した灌漑農業
高度な文明が発達

古代のオリエント

⑨授業用スライド対応ワークシート Word

- 授業用スライドに対応したワークシートもご用意しています。

詳説世界史 p.20～28

第1部 諸地域の歴史的特質の形成

第1章 文明の成立と古代文明的特質

2 古代オリエント文明とその周辺

【Q 古代オリエント文明は、世界の歴史にどのような影響を与えたのだろうか。】

オリエントの風土と人々

Q オリエントの風土は、その文明の特質とどのような関係にあるのだろうか。

オリエント：ヨーロッパからみた「日ののぼるところ、東方」
西アジアからエジプトにかけての地域

ティグリス川
ユーフラテス川
ナイル川など大河の流域
…定期的な増水を利用した灌漑農業
高度な文明が発達

メソポタミア

ティグリス川・ユーフラテス川流域
→周辺からセム語系・インド＝ヨーロッパ語系の遊牧民が畜を求めて移住→興亡を繰り返した

エジプト

砂漠と海に囲まれた地形→ナイル川のめぐみを受
→エジプト語系の人々→長年にわたる高度で安定した文明

シリア・パレスチナ地方

メソポタミア・エジプト両地方を結ぶ位置
→メソポタミアと「肥沃な三日月地帯」を形成
→小麦・オリブ栽培
→セム語系の人々→地中海・内陸交易で活躍

オリエントの社会・文化の特色

大河を利用した治水・灌漑
→宗教の権威による強力な
→独自の信仰生活と文化の誕生

風土と生産

沿岸部…都市を中心に文明が発達
山がちな陸地…夏：暑く乾燥、冬：少量の降雨
→大河・肥沃な大平野にめぐまれない
土壌：やせた石灰岩質
生産…果樹栽培(オリブ・ブドウ)・牧畜(ヤギ・羊)

Q オリエントの風土は、その文明の特質とどのような関係にあるのだろうか。

乾燥地域が多く、大河の氾濫を利用した大規模な治水・灌漑をおこなうために、宗教の権威による強力な王権が生まれた。

⑩ 準拠テスト例 Word

〈1章ごとにA4約10枚収録〉

- 教科書の章ごとに構成されています。
- 小問ごとに観点別評価を明記しています。
- 様々なパターンの出題形式を用意しています。

のですが、どのようにして文字は誕生したのでしょうか。

先生：いい疑問ですね。文字は言語を記録する手段として発明されたもので、徴税記録や王統の記録など国家権力にとって必要なものでした。しかし、世界には未だに解読されていない文字もあります。たとえば(i)文明の線文字 A やインダス文明のインダス文字が未解読の文字としてあげられます。

生徒：文字が解読されていないということはその文明の詳細がわかっていないということですか。

先生：その通りです。解読が進めば新たな歴史の扉が開いていくので、今後に期待ですね。さて、今日は前回の授業で予告した通り、世界史かるたをつくります。

生徒：先生、考えてきました。みてください。

文字札 1

文字札 2

絵札 1

絵札 2

問1 会話文中の下線部①について、アルファベットの原型となった文字として正しいものを、つぎのA～エから1つ選べ。【知識・技能】

A. アラム文字 イ. アラビア文字 ウ. フェニキア文字 エ. ソグド文字

問2 会話文中の下線部②について、ヘブライ人は選民思想や救世主の出現を待望する信仰を生み出したが、その信仰を生み出すに至った経緯を説明せよ。【思考・判断・表現】

問3 会話文中の空欄(i)について、(i)文明にもっとも関連する資料1・2と資料から読み取れる事柄X・Yとの組合せとして正しいものを、下のA～エから1つ選べ。【思考・判断・表現】

問題ごとに【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】のいずれに相当するのかを示しています。

- 準拠テスト例に対応した「ルーブリック(評価規準表)例」を収録しました。
- A・B・Cの具体的な規準を例示しています。

	A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する
知識・技能	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について総合的にとらえて理解できるとともに、複数の資料から情報を適切につまみ、効果的に調べまよめる技能を身につけている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について理解できるとともに、複数の資料から情報を調べまよめる技能を身につけている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について理解や、資料から情報を調べまよめる技能が十分に身につけていない。
思考・判断・表現	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目し、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象について、資料を通して読み取れる情報から多面的・多角的に考察し、表現している。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質に関わる諸事象について、資料の読み取りが不十分で、適切な考察にもとづき表現していない。
主体的に学習に取り組む態度	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、みずから関心をもって学習に取り組み、振り返りを効果的に活用し、課題を主体的に探究しようとしている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、みずから関心をもって学習に取り組み、振り返りを活用し、課題を探究しようとしている。	各地の古代文明の特徴と、それらに共通する特質について、学習への取り組みが不十分で、振り返りを活用できていない。

⑪ 準拠ノート PDF Word

- 『詳説世界史整理ノート』の紙面データは、PDFとWordの2種類を収録しました。

※PDFデータには、一部を除き写真も掲載しています。

PDF

Word

第2章 中央ユーラシアと東アジア世界

1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界

① 中央ユーラシアの風土

② 遊牧民の社会と国家

③ スキタイと匈奴

④ オアシス都市の発達

第2章 中央ユーラシアと東アジア世界

1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界

① 中央ユーラシアの風土

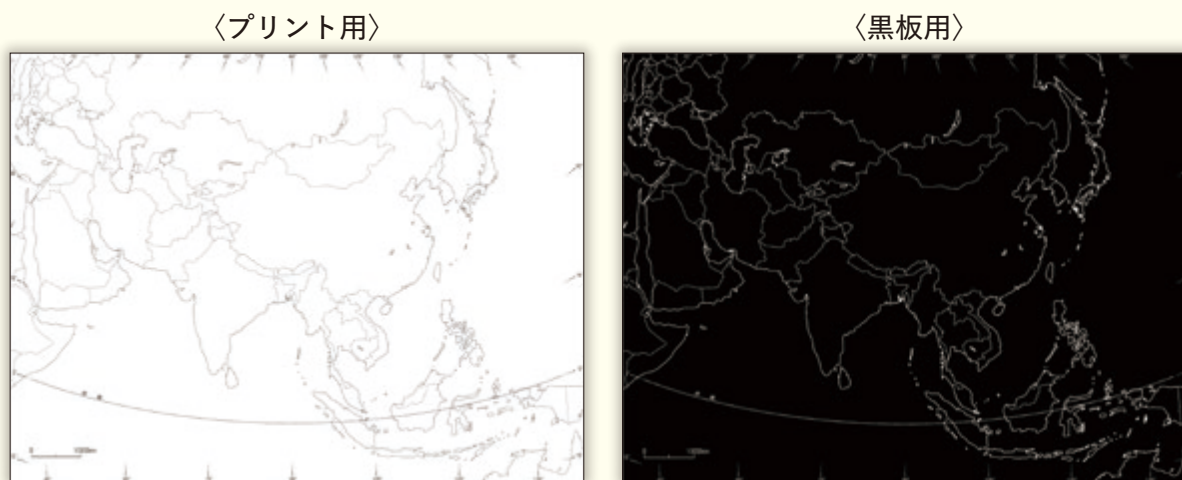
② 遊牧民の社会と国家

③ スキタイと匈奴

④ オアシス都市の発達

⑫ 白地図集 JPEG

- プリントなどの作成に便利な白地図データは、プリント用・黒板用の2種類を収録しました。



詳説世界史ノート

世探704準拠

B5判・264頁＋解答24頁・2色刷 定価1,100円（税込） ISBN978-4-634-04121-9

- 自学自習用の書込式ノートです。大学受験なども想定して、様々な要素を取り入れました。
- 穴埋め形式で知識を確認するほか、教科書本文の豊富な図版や史資料も盛り込み、学力の定着を図ります。

教科書本文・節の「問い」の解答欄を設けています。

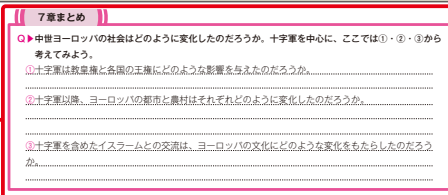
教科書本文をわかりやすく整理し、図解も取り入れています。



見開き両脇を解答欄としています。

章末には、学習内容のまとめとなる「まとめの問い」を設けました。

教科書本文の地図や図版、史資料を豊富に盛り込み、読み解きや論述のポイントにもなる「問い」を設けました。



ご採用特典として

- ① 本文テキストデータ (Word)
 - ② 解答あり＆解答なしの書籍紙面データ (PDF)
- ※書籍紙面データには、許諾上の理由から写真は掲載しておりません。をご提供いたします。



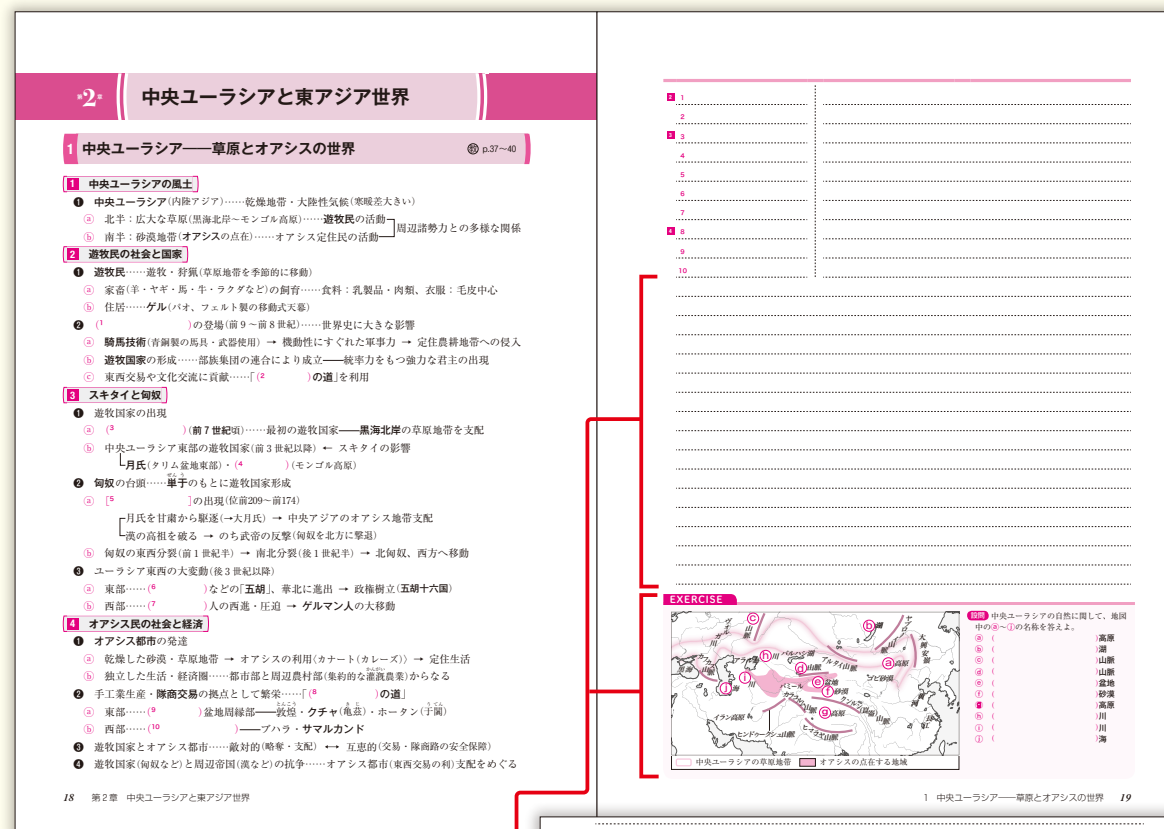
詳説世界史授業用整理ノート

世探704準拠

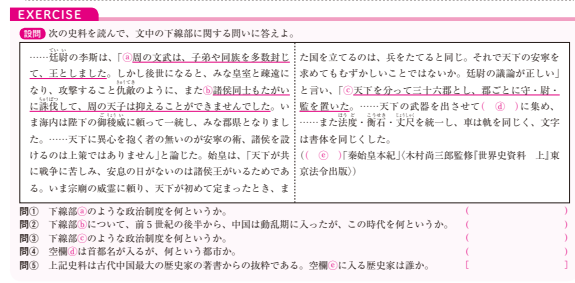
B5判・272頁＋解答24頁・2色刷 定価946円（10%税込） ISBN978-4-634-04122-6

- 授業用の書込式ノートです。様々な授業スタイルを想定して、シンプルな構成にしました。
- 左頁では、思考のベースとなる知識を確認します。右頁には自由に書き込めるノート欄と学習内容を確認する「EXERCISE」コーナーを設けました。

左頁では、教科書の内容をわかりやすくまとめています。穴埋め形式で、重要語句の確認ができます。



右頁は、自由に書き込めるノート欄と、学習内容を確認する「EXERCISE」で構成しています。「EXERCISE」には、図表・地図・史料問題など様々なパターンをご用意しています。



ご採用特典として

- ① 本文テキストデータ (Word)
 - ② 解答あり＆解答なしの書籍紙面データ (PDF)
- ※一部を除き、書籍紙面データにも写真を掲載しています。をご提供いたします。



山川詳説世界史図録 第5版

世探704準拠

AB判 376頁 4色刷 定価990円(10%税込) ISBN978-4-634-04515-6

- 『詳説世界史』（世探704）に準拠した図録です。教科書の章・節に沿って構成されています。
- 巻頭にまとめた「同時代の世界」で時間軸と空間軸を整理！世界地図、年表、関連資料で、時期ごとの世界の変化やつながりを確認できます。
- 文字資料の点数を増やし、各資料に読み解く視点を示す問いをつけました。
- より分かりやすいデザインにリニューアル！レイアウトも見直し、図版を大きく掲載しています。



地域と時代のインデックスを追加しました。自分が学習している場所を確認できます。

38 南アジアの古代文明

1 古代文明の成立



2 南アジアの風土と人々



2 南アジアのモンスーン



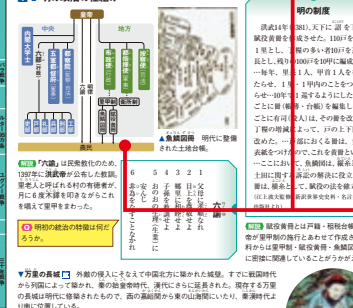
●南のモンスーン(雨季)は、南から吹く西南風が、インド洋から湿った空気を運んで、インド半島の西側に雲を形成し、大雨を降らす。北のモンスーン(乾季)は、北から吹く東北風が、インド洋から乾燥した空気を運んで、インド半島の東側に雲を形成し、小雨を降らす。

114 明代の中国と隣接諸地域①

1 明代の政治

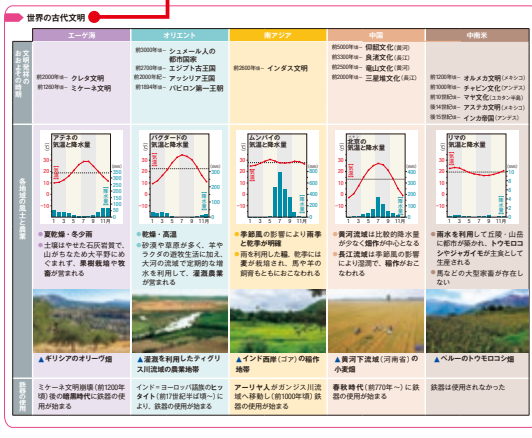


2 明の政治の仕組み



時代のインデックス。

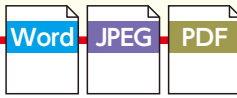
単元全体やポイントを整理・図式化した「まとめ」を設定しました。



文字資料・グラフ・表を豊富に掲載しています。

ご採用特典として

生徒用には別冊「地図問題＆白地図」「解答例・解説」をご提供します。また、先生向けには、掲載文字資料（Word）／別冊「地図問題＆白地図」の問題・地図（Word・JPEG）／別冊「解答例・解説」（Excel）／紙面 PDF をご用意しています。



詳説世界史10分間テスト

※書店店頭での販売は致しません

世探704準拠

A5判 168頁＋解答32頁 2色刷 定価770円(10%税込) ISBN978-4-634-04131-8

- 『詳説世界史』（世探704）の内容を81テーマに分け、1テーマにつき見開き2ページでまとめたテスト集です。
- 左頁の「10分間テスト」で基礎的な用語を確認し、右ページの「advanced」（発展問題）と「exercise」（図版・地図問題など）で理解の定着をはかります。
- 探究的な学習の前提となる知識をコンパクトに整理しています。



Step1

左ページの「10分間テスト」では、約20個の基本的な用語をおさえることができます。

Step2

「advanced」では、「10分間テスト」を発展させた問題や、理解を深める問題を中心に取り上げ、より知識の定着をはかります。また、『詳説世界史』中で扱われていないけれど重要な用語も、*マークを付して取り上げています。



Step4

「10分間テスト」と「advanced」にはチェック欄を設けました。解けた箇所・解けなかった箇所を把握することで、効率的な復習が可能です。

Step3

問題文中の重要用語を赤ゴチックで示しています。赤シートで隠すことができます。

「exercise」では、図や表、地図を用いた問題を取り上げています。知識の整理に役立てることができます。

ご採用特典として

- ①簡単な操作で小テストが作成できる「小テスト作成用データ」(Excel) ※問題文のシャッフルや、解答の表示/非表示も可能です。写真・地図・図版問題は収録しておりません。
 - ②解答あり＆解答なしの書籍紙面データ(PDF) ※書籍紙面データには、許諾上の理由から写真は掲載しておりません。
 - ③タブレット等への配信と、解答の集計が可能な「Google Forms 版解答欄」 ※ご使用に際して Google アカウントの取得が必要です。
- をご提供いたします。



小テスト作成用データ ご紹介動画▶



年間指導計画・評価規準例（※3単位、年間105時間）



学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての素養・能力を育成することを旨とする。

使用教科書・副教材

教科書：『詳説世界史』
副教材：『詳説世界史ノート』
『詳説世界史授業用整理ノート』
『詳説世界史図録』

部	章	節	配当時			学習内容とねらい
			月	授業 時数	授業時	
第1部 諸地域の歴史的 特質の形成		世界史へのまなざし1		1	1	①人類の誕生を地球46億年の歴史のなかに位置づけて考察する。 ②自然環境と人類の関わり方の概要を理解する。 ③人類の進化の過程の概要を理解する。
		世界史へのまなざし2				①砂糖とコーヒーを事例として、自らと世界史のつながりについて考察する。 ②余暇や家族を事例として、歴史的に形成されてきた概念が日常生活のなかにあることを理解する。 ③余暇や家族を事例として、ものの見方や考え方と社会の仕組みとの関係を考察する。
		第1部を学ぶ前に	4月	6	2	①西アジアの身分・階級・王権・宗教に関する資料から情報を読み取ったりまとめる。 ②西アジアにおいて多様な身分・階級が生まれた背景および宗教と王権の関係について考察する。
	第1章 文明の成立と古代文明の特質	1 文明の誕生				①自然環境の変化と農耕・牧畜の開始の関係について考察し、文明誕生の基礎について理解する。 ②おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。
		2 古代オリエント文明とその周辺				①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。
		3 南アジアの古代文明				①南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。 ②南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ③アリア人の進入が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。
		4 中国の古代文明				①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。 ④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。
		5 南北アメリカ文明				①北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界			5	①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土の関係を理解する。 ②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 ③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。 ④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。
		2 秦・漢帝国				①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
		3 中国の動乱と変容				①遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱の関係について理解する。 ②魏晉南北朝時代に仏教や道教が力をもつようになった要因や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。
		4 東アジア文化圏の形成				①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。

※小社HPに全体のExcelファイルを用意しています。

科目全体の評価の観点(指導要領の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の規準				評価方法
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
自然環境と人類の関わりおよび人類の進化の課程の概要を理解している。	長期にわたる地球気温の変化を示す統計資料や「地球カレンダー」などの資料をもとに、地球の自然環境が直面している危機およびその克服へ向けた取り組みを多面的・多角的に考察し表現している。	自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
今日の社会で一般的とされていることの多くが歴史的に形成されたもので、地域や時代によっては一般的ではないことを理解している。	日常生活のなかに世界史とつながっているモノを見出し、自分自身と世界のつながりを多面的・多角的に考察し表現している。	日常生活と世界史のつながりについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
資料から情報を読み取ったりまとめるたりする技能を身に付けている。	文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現している。	古代文明や諸地域の歴史的特質について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。	壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化の関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。	文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
オリエントの大半が乾燥地帯であること、その中で大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。	ハンムラビ法典や旧約聖書などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。	ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アリア人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。	南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流が行われたことを理解している。	青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。	中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
南北に長く広がるアメリカ大陸の各地で、それぞれの地域の環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。	南北アメリカ文明に共通する特徴、とくにユーラシアやアフリカの古代文明とは異なるものを多面的・多角的に考察し表現している。	南北アメリカ文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
中央ユーラシアの厳しい環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。	風土を示す写真や「史記」匈奴列伝などの資料をもとに、中央ユーラシアの人々の動向が、世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	中央ユーラシアの動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。	兵馬俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。	秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
魏晉南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族とのかかわりもふまえたうえで理解している。	「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晉南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	魏晉南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	
隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。	壁画などの図像資料や『旧唐書』輿服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。	東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだし、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	

指導者用デジタル教科書(教材) 学習者用デジタル教科書

世探704準拠

世探705準拠

世探706準拠

- デジタル教科書は「指導者用」「学習者用」とともに **「インストール版」** **「クラウド版」** をご用意しています。



※画像は『詳説世界史』のサンプルです。

サンプル版は
こちら！

指導者用



学習者用

※サンプルは『詳説世界史』より抜粋

★ご注文の前にご確認ください★

「指導者用デジタル教科書(教材)」と「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は、それぞれ別の商品のため、混同されないようご注意ください。

- 「指導者用デジタル教科書(教材)」は、教科書の電子書籍版に教材アプリの機能がついた商品です。

- 「教師用指導書 授業実践編 付属データ集」は紙面PDFや図版データ、スライド、準拠テスト例などが収録されたコンテンツ集です。

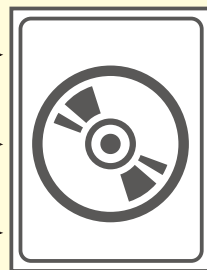
⇒p.28 ⇒p.58
⇒p.84

教師用指導書 授業実践編付属データ集DVD-ROM

教科書紙面PDF

教科書図版データ

教科書テキストデータ



指導書紙面PDF

授業用スライド

PowerPoint

準拠テスト例

Word

評価規準例

Excel

「指導者用デジタル教科書(教材)」と 「学習者用デジタル教科書」の違い

- ビューアの基本機能（ズーム表示や書き込み等）は「指導者用」「学習者用」共通です。
- 「指導者用」には、授業に便利な独自のアプリ機能がつきます。
- 価格は **⇒p.92** をご覧ください。

「指導者用デジタル教科書(教材)」 「学習者用デジタル教科書」 共通機能

	検索	用語を入力して掲載ページを検索・移動します。		道具	タイマー、ふせん、ポインター、リンク貼り付けなどが使用できます。
	ペン マーカー	色、透明度、太さの設定が変更できます。		記録	書き込みをした内容の保存、読み込みができます。
	図形 スタンプ	図形は色、透明度、太さが選べます。スタンプは初期登録の素材の他、画像データを読み込んで貼ることができます。		表示設定	全画面表示への切替や、紙面上のクリックポイントの表示などの設定ができます。
	消す	消しゴムでの部分消去や全消去、「元に戻す/やり直す」操作ができます。		ズーム	紙面の拡大表示ができます。
	リンク	教科書紙面の二次元コードは動画や文書のアイコンとなっており、動画視聴Webサイトや関連コンテンツへとリンクします。※オンライン環境が必要です。			

「指導者用デジタル教科書(教材)」 独自機能

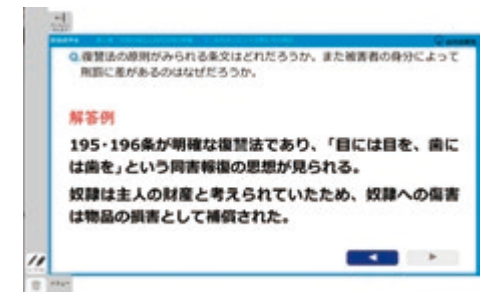
●地図・グラフアプリ

アプリアイコン が付いている地図・グラフは、凡例（領域・矢印など）やデータ系列ごとに表示/非表示の切替えができます。必要に応じて、特に説明したい要素だけを表示することができます。



●Q&Aアプリ

デジタル紙面の発問の部分をクリック/タッチすることで、問いかけに対する解答例のスライドを表示することができます。
(問いかけのスライド・解答例のスライドをボタンで切り替えることが可能です)



指導者用デジタル教科書(教材)／ 学習者用デジタル教科書

「インストール版」と「クラウド版」の違い

- 「インストール版」はDVDを納品します。各端末にインストールしてご利用ください。
※リンク先のサイトに遷移する際は、オンライン環境が必要となります。
- 「クラウド版」は各端末のブラウザでクラウドサーバーにアクセスしてオンライン環境にてご利用ください。

【インストール版】

【同一の学校建物内の指導者用端末に限りインストール数の制限なし】

- (インストール方法①) 各利用端末に直接インストールしてご利用ください。
※端末インストール(スタンドアロン)はWindows PCのみの対応となります。
- (インストール方法②) DVD-ROMに収録されているデジタル教科書のデータを学校・教育委員会等に設置されているWebサーバーにアップロードして各利用端末からアクセスしてご利用ください。※ファイルサーバーは動作保障環境の対象外です。

【クラウド版】

【校内フリーライセンス】

- 小社からライセンス証・学校管理者向けスタートガイドをお送りします。スタートガイドに沿って初期設定の作業をしていただくことで、完了後、ライセンス証記載のご利用開始日よりご利用いただけます。
- オンライン環境にて、各利用者端末から当社指定のクラウドサーバーへアクセスしてご利用ください。

指導者用／学習者用 デジタル教科書 商品概要

	指導者用デジタル教科書(教材)	学習者用デジタル教科書
税込み価格 (本体価格) ※インストール版、 クラウド版共通	①教師用指導書授業実践編 付属データ集DVD-ROM付 1冊 ②教師用指導書研究編 1冊 ③指導者用デジタル教科書 3点セット価格 定価55,000円(10%税込) (本体50,000円)	1人につき 定価1,100円(10%税込) (本体1,000円)
インストール版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
クラウド版利用期間	教科書ご利用期間内(最長4年間)	教科書ご利用期間内(最長3年間)
ライセンス形態	学校内フリーライセンス ご購入いただくことで、学校内の指導者用端末で何台でもご利用が可能です。ライセンス有効期間は4年間となります。	1ユーザー1ライセンス 必要な人数分のライセンスをご購入いただき、学習者用端末でご利用ください。紙の教科書のご利用期間中はライセンスが有効となります。
利用者端末 動作環境	動作保証環境 ●iPad OS [®] ブラウザ: Safari ●Chrome OS [®] ブラウザ: Google Chrome ●Windows 10/11 ブラウザ: Microsoft Edge・Google Chrome ※iPad OS・Chrome OSはクラウド版、または学校内Webサーバー環境のみご利用可能。インストール版(DVD版)の端末インストールはご利用いただけません。	
基盤システム	デジタル教科書の提供・表示ビューアの基盤となるシステムとして「みらいスクールプラットフォーム」(https://www.mirai-school.jp/platform/)を採用しています。 専用のビューアはMicrosoft Edge、Google Chrome等のブラウザで動作します。	

※紙の教科書をご採用いただいた場合に限り、対応する「指導者用デジタル教科書」「学習者用デジタル教科書」のライセンスをご購入いただくことが可能です。

※本資料のデジタル教科書の画面イメージ・記載内容は開発中の情報を含むため、製品版において変更になる場合があります。

約13,000点の地歴コンテンツが定額制で使い放題！

Webの

社 会 科 準 備 室

山川&二宮ICTライブラリ

山川&二宮ICTライブラリは、地理・歴史の教育コンテンツを定額制でご利用できるWebサービスです。

図表
年表

地図

グラフ
統計



スライド

動画

プリント

●簡単検索！

フリーワード検索はもちろん、科目・時代・分野・地域やコンテンツの種類にチェックを入れるだけで簡単に検索・絞り込みができます。また、2022年5月より〈書籍別検索〉機能を追加。関連するコンテンツのリンク機能も充実し、さらに便利になります。

●コンテンツ解説文

画像や動画には解説文がついています。生徒の興味や関心を引き出すための導入や、プリント作成時の参考文献として活用できます。

●マルチデバイス対応

ひとつのアカウントで、パソコン・タブレット・スマートフォンなど様々なデバイスからご利用になれます。

ご利用中の先生の声

これまで190校を超える学校様にご採用いただきました！

- ・Google動画や自然地理アニメなど活用しています。(東京都私立高校)
- ・指導書を個別に購入するよりもコストパフォーマンスがよく、価格相応と感じます。(静岡県公立高校)
- ・授業準備の時間が短縮されました。マルチデバイスは便利です。(東京都私立高校)
- ・コンテンツがクラウドにあるので、ROMからダウンロード等の手間がなく、大変効率的です。(大阪府私立高校)

まずは無料トライアルを！

法人向け定額制コースをご検討の学校様には、ほぼすべてのコンテンツを2週間お使いいただける〈無料トライアルバック〉をご用意しています。詳しくはこちらのサービスサイトをご覧ください。▼

料金プラン

法人向け定額制コース **77,000円/年(税込)**

- ・地理歴史・公民科にご在籍の先生でしたら何名様でもご利用できます。
- ・同一敷地内の中高一貫校様は、中学校・高等学校ともご利用になれます。

個人向け定額制コース **1,320円/月(税込)**

- ・クレジットカード決済のみのお取り扱いとなります。
- ・領収書の発行も可能です。

サービスのお申し込み/
詳しいご説明はこちらから

<https://ywl.jp/service>



ICTライブラリ サービスサイト 検索

世界史探究 著作者一覧

(2023年3月現在・五十音順)



詳説世界史 世探704

世界史の枠組みを体系的に学べる信頼の教科書

- ★バランスよく、わかりやすい丁寧な記述
- ★時代の特色をつかむ多様な問いかけ
- ★探究活動に取り組みやすい大きな図版・豊富な史資料



高校世界史 世探705

基本をおさえて、資料で深める

- ★要点をおさえた、わかりやすい教科書
- ★「探究」の構造を理解できる、問いを中心とした展開
- ★資料読み解きのスキルが身につく



新世界史 世探706

考える歴史の時代に向けて新しく生まれ変わった『新世界』

- ★現代世界を知るための歴史的視座を養う教科書
- ★「考える」「理解する」「追究する」教科書
- ★図版・地図・史資料を読み解く力がつく教科書

林 佳世子 (はやし かよこ)

東京外国語大学学長

オスマン帝国史

- 詳説世界史
- 高校世界史



小豆畑 和之 (あずはた かずゆき)

東京都立西高等学校教諭

世界史教育

- 高校世界史
- 歴史総合707



岡本 聡 (おかもと さとし)

白陵高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



加藤 修治 (かとう しゅうじ)

武蔵高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



木村 靖二 (きむら せいじ)

東京大学名誉教授

ドイツ近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



千葉 敏之 (ちば としゆき)

東京外国語大学教授

ドイツ中世史

- 新世界史



藤本 和哉 (ふじもと かずや)

筑波大学附属高等学校教諭

世界史教育

- 詳説世界史
- 歴史総合708



阿部 幸信 (あべ ゆきのぶ)

中央大学教授

中国古代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



小川 正樹 (おがわ まさき)

函館ラ・サール高等学校教頭

世界史教育

- 新世界史



仮屋園 巖 (かりやどの いわお)

東京都立国立高等学校教諭

世界史教育

- 高校世界史
- 歴史総合707



久保 文明 (くぼ ふみあき)

東京大学名誉教授・防衛大学校長

アメリカ現代史

- 新世界史
- 歴史総合708



丹羽 敬 (にわ たかし)

元愛知県立明和高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



南川 高志 (みなみかわ たかし)

京都大学名誉教授・佛敎大学特任教授

古代ローマ史

- 新世界史



池田 嘉郎 (いけだ よしろう)

東京大学准教授

ロシア近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707
- 中学歴史



小田中 直樹 (おだなか なおき)

東北大学教授

フランス社会経済史

- 新世界史
- 歴史総合708



岸本 次司 (きしもと つぐし)

元鳥取県立鳥取西高等学校教諭

世界史教育

- 新世界史



小松 久男 (こまつ ひさお)

東京大学名誉教授

中央アジア近現代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707



橋場 弦 (はしば ゆづる)

東京大学教授

ギリシア古代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 中学歴史



宮本 英征 (みやもと ひでゆき)

玉川大学准教授

世界史教育

- 高校世界史



石井 栄二 (いしい えいじ)

東京都立国立高等学校

世界史教育

- 詳説世界史



勝田 俊輔 (かつた しゅんすけ)

東京大学教授

アイルランド近代史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 新世界史
- 歴史総合707



岸本 美緒 (きしもと みお)

お茶の水女子大学名誉教授

中国明清史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 新世界史
- 歴史総合707



島田 竜登 (しまだ りゅうと)

東京大学准教授

南アジア史・東南アジア史

- 詳説世界史
- 高校世界史
- 歴史総合707
- 歴史総合708



羽田 正 (はねだ まさし)

東京大学特任教授

イスラーム史

- 新世界史



村上 衛 (むらかみ えい)

京都大学准教授

中国近代史

- 詳説世界史
- 高校世界史



山川出版社ホームページ 収録データ 一覧

下記データは小社ホームページにアクセスしてご覧ください。

Topic!

● 観点別評価集計表 Excel

観点別評価の集計に便利なExcelファイルをご用意しました。
学校の先生が実際に使用しているシートです。
ホームページよりダウンロードしてご活用ください！



● 世界史探究教科書の紹介ページ

- ・教科書の特徴紹介
- ・教科書ダイジェスト版 PDF
- ・内容解説資料 PDF
- ・年間指導計画作成資料 Excel
- ・教科書紹介動画



● デジタル教科書

- ・商品概要
- ・サンプル版



● 教科書の訂正内容のお知らせ



● 山川 & 二宮ICTライブラリ サービスサイト



世界史探究の授業展開案は『歴史PRESS』の特集号もご参照ください！

『日本史探究・世界史探究』特集号

- ・歴史PRESS No. 7 新課程教科書 授業展開案 など
- ・歴史PRESS No. 8 新課程教科書 授業展開案 など

こちらから
ご覧ください



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13
TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469

<https://www.yamakawa.co.jp/>